

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分 一部令和7年度分含む)

静岡県農林技術研究所果樹研究センター

目 次

事務事業の概要	1
事業の根拠法令調	5 7
職員の年齢調	5 8
健康管理	6 0
職員配置調	6 4
歳入予算執行状況調	6 6
現金出納調	7 0
保管現金有高調	7 0
預金調	7 0
郵券等受払調	7 2
歳入歳出外現金調	7 4
歳出予算執行状況調	7 6
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	8 4
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	8 5
委託料に関する調	8 6
負担金支出調	9 0
土木工事調	9 4
公有財産調	9 6
借地借家等調	1 0 0
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	1 0 1
行政財産貸付・使用許可調	1 0 2
普通財産・借受財産等貸付調	1 0 3
備品・図書調	1 0 4
主要備品調	1 0 8
生産物受払調	1 1 0
試験研究成果一覧表	1 1 3
公務中の事故等に関する調	1 1 6
工事中の事故に関する調	1 1 7
前回の監査結果改善状況調	1 1 8

1 事務事業の概要

(1) 概 況

① 沿革

(農林技術研究所)

- 明治33年5月 安倍郡豊田村曲金(現静岡市駿河区曲金)に静岡県立農事試験場として創設
- 大正11年4月 浜名郡芳川村(現浜松市南区頭陀寺町)の郡立農事試験場が県に移管され、静岡県立農事試験場そ菜部として再発足
- 昭和11年8月 本場を静岡市北安東に移転(平屋建一部二階)
- 15年7月 高冷地試験地を駿東郡御殿場町新橋(現御殿場市新橋)に新設(25年分場と改称)
- 25年5月 そ菜部を廃止、農業連合会に移管、名称が西遠採種場となる
- 31年7月 静岡県立農事試験場を静岡県農業試験場と改称
- 〃 海岸砂地分場を小笠郡浜岡町(現御前崎市)池新田に新設
- 〃 西遠採種場が県に移管され、遠州園芸分場として再発足
- 33年4月 三方原田畑輪換試験地を浜松市東三方原町に設置(41年試験完了し閉鎖)
- 33年8月 高冷地分場を御殿場市御殿場に移転
- 36年4月 林業試験場伊豆分場(田方郡天城湯ヶ島町)が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場わさび分場とした
- 37年3月 本場を改築(鉄筋コンクリート三階建一部二階)
- 43年4月 東部園芸指導所(田方郡函南町)が機構改正により、農業試験場に移管され、東部園芸試験地と改称した(50年東部園芸試験実証圃、63年東部園芸分場と改称)
- 44年4月 蚕業センター(静岡市田町)が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場蚕業部とし、繭検定所を併設(50年3月まで)
- 〃 西遠農業センター(浜松市都田町)が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場機械営農部とし、落葉果樹試験地を併設
- 〃 主要農作物原種農場(掛川市下垂木)が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場主要農作物試験地とした(63年4月作物部水稻研究に組織替)
- 47年4月 静岡県肥飼料検査所を本場内に併設(60年3月まで)
- 48年9月 海岸砂地分場を小笠郡浜岡町(現御前崎市)合戸に移転
- 51年4月 落葉果樹試験地を柑橘試験場へ移管、機械営農部の茶業部門を茶業試験場三方原試験地へ移管
- 52年4月 有用植物園が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場伊豆分場とした(53年伊豆振興センターへ移管)
- 53年4月 遠州園芸分場を磐田郡豊田町富丘に移転
- 55年4月 農業試験場本場の移転に先立ち機構を改正し、遠州園芸分場を園芸部、機械営農部を新設の施設部及び機械研修課(管理部)に組織替
- 55年9月 農業試験場本場を磐田郡豊田町富丘(現在地)に新築移転

- 昭和58年4月 機構改正により、「生物工学研究スタッフ」を設置、管理部総務課及び経理課を統合して総務課に改め、庶務係（3年4月総務係に改称）及び経理係を新設
- 62年4月 機構改正により、伊豆振興センター南伊豆農場が農業試験場に移管され、名称を農業試験場南伊豆分場とした
- 63年11月 機械研修課を浜松市都田町から掛川市下垂木へ新築移転
- 平成元年2月 遺伝資源保存施設完成
- 元年4月 機構改正により、機械研修課を農林短期大学校へ移管、施設部を廃止し、経営調査部を企画経営部に、化学部を土壤肥料部に改称し、生物工学部を新設
- 元年6月 生物工学研究施設完成
- 7年12月 高冷地分場（ほ場を除く）を御殿場市竈の御殿場合同庁舎内に移転
- 8年4月 機構改正により、賀茂、東部、中部、中遠、西部の各病害虫防除所を統合、農業試験場に病害虫防除所を設置
- 8年11月 掛川ほ場を廃止し、水稻研究部門を磐田市三ケ野の三ケ野ほ場に移転
- 11年3月 放射線育種研究施設完成
- 12年4月 植物バイオプロジェクトスタッフ（7名）を新設（平成14年度まで）
- 12年10月 農業試験場・農林大学校100周年記念事業実施（公開デー）
- 15年4月 病害抵抗性誘導プロジェクトスタッフ（4名）を新設（平成17年度まで）
- 16年4月 土着天敵プロジェクトスタッフ（4名）を新設（平成18年度まで）
- 17年4月 機構改正により、普及課を廃止
- 18年4月 メロン超低コストプロジェクトスタッフ（3名）を新設（平成20年度まで）
- 19年4月 農業試験場、茶業試験場、柑橘試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編。南伊豆分場、わさび分場と柑橘試験場伊豆分場を統合し、東伊豆町に伊豆農業研究センターを設立。東部園芸分場、高冷地分場、海岸砂地分場を廃止
- 管理部を廃止し総務課に、作物部、園芸部を統合し栽培技術部に、土壤肥料部、病害虫部を統合し生産環境部に、生産工学部を新品種開発部とする
- 環境復元型水田プロジェクトスタッフ（3名）を新設（平成21年度まで）
- 21年7月 伊豆農業研究センター新庁舎竣工。南伊豆ほ場の機能を同センターに集約し、同ほ場を廃止
- 22年4月 組織改正により企画経営部を企画調整部とし、同部内に企画調整班を設置。栽培技術部、生産環境部及び新品種開発部を廃止し、野菜科、花き科、作物科、育種科、経営・生産システム科、品質・商品開発科、植物保護科及び土壤環境科を設置。病害虫防除所内に病害虫班を設置。伊豆農業研究センター内に栽培育種科を設置し、わさび研究拠点をわさび科とする。
- 農村植生管理プロジェクトスタッフ（4名）を新設（平成24年度まで）
- 24年10月 芝草研究所を設置
- 29年4月 次世代栽培システム科新設
- 30年4月 組織改正により野菜科、花き科、作物科、経営・生産システム科、品質・商品開発科及び、植物保護科を野菜生産技術科、花き生産技術科、水田農業生産技術科、農業ロボット・経営戦略科、加工技術科、植物保護・環境保全科とし、育種科を廃止。土壤環境科を廃止し栄養・機能性科を設置。伊豆農業研究センターの栽培育種科及びわさび科を生育・加工技術科及びわさび生産技術科とする

（茶業研究センター）

- 明治41年4月 県の試験研究機関として「県立農事試験場茶業部」を設置、茶の栽培、製造試験を開始する

- 大正2年4月 茶業部内に練習生制度を設ける（定員6名）
- 昭和12年4月 機構改革により「静岡県立茶業試験場」として独立
併せて練習生制度を拡充する（定員10名）
- 15年4月 南伊豆白浜村に紅茶種育苗成地を設置する
- 18年一 第二次大戦の激化に伴い紅茶種育苗成事業を廃止する
- 23年4月 富士市石坂及び浜松市三方原町に、品種適応試験を兼ねた優良品種種育苗成地を設置する
- 25年4月 国の方針により試験研究事業を農林省東海近畿農業試験場茶業部に移管し、県立茶業指導所と改称。富士、三方原種育苗成地を改め富士支所、三方原支所とする
- 32年4月 機構改革に伴い、静岡県茶業試験場となり本場に総務、種芸分析、製茶加工の3課を設け、また、富士、三方原支所を改め分場とする
練習生制度の内容充実を図り茶業技術講習所（定員20名）を設置する
- 37年4月 3課制を廃止し、本場に総務、栽培、化学、製茶加工の4課制とする
- 40年4月 三方原分場を廃止する
茶業技術講習所を茶業専門研修所に改称する
- 43年4月 本場に普及課を設置する
- 44年4月 製茶加工課を製茶課、再製加工課に改め6課制とする
- 45年4月 組織の改正により6課制を廃止、総務課、普及課の2課制とし、試験研究部門を製茶、栽培、環境の3スタッフ制とする
静岡県茶業専門研修所を静岡県立茶業専門研修所に改める
- 49年4月 県立農業短期大学校新設に伴い、茶業専門研修所を同大学校茶業学科と改め、当試験場に併設する
- 51年4月 機構改革により農業試験場機械営農部茶部門を改め、三方原試験地とする
- 54年3月 機構改革により三方原試験地を廃止する
- 55年4月 経営山間地研究スタッフを加える
県立農業短期大学校茶業学科を県立農林短期大学校茶業分校と改称する
- 58年4月 試験研究部門を栽培研究室、環境研究室、製茶研究室、経営山間地研究室に改める
- 59年4月 経営山間地研究室を山間地研究室に改める
- 60年4月 本場に経営研究室を新設し、山間地研究室を改め、榛原郡中川根町に山間地技術センターを設置する
- 61年4月 経営研究室を新製品研究室に改める
- 平成2年4月 栽培・環境研究室を栽培・育種・病害虫研究室に改める
- 8年4月 先進的茶業経営モデル事業の推進のため、実証ほ場担当研究スタッフを設置し、山間地技術センターと併せ実証ほ・山間地技術センターに改める
- 9年4月 試験研究部門を栽培研究、育種研究、製茶研究、病害虫研究、新製品研究、実証ほ・山間地研究の6スタッフ制に改める
- 10年3月 榛原町仁田に茶業試験場実証ほ場が完成する
- 10年4月 製茶研究、新製品研究を製茶・新製品研究に改める
- 11年4月 県立農林短期大学校茶業分校を県立農林大学校茶業分校と改称する
- 12年4月 摘採ロボットプロジェクトスタッフを設置（平成14年度まで）し、育種研究と実証ほ・山間地研究を併せ育種・実証ほ研究に改める
- 13年4月 栽培研究を土壌肥料研究と栽培・育種研究に分割し、育種・実証ほ研究を栽培・育種研究に

改める

- 平成15年4月 栽培・育種研究を栽培研究と育種研究にする
- 17年4月 本場、普及課を廃止する
- 19年3月 仁田実証ほ場（7号ほ場を除く）を用途廃止後、空港部へ所属替えを行う
- 19年4月 茶業試験場、農業試験場、柑橘試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編
新粉末緑茶プロジェクトスタッフ（3名）を新設（平成21年度まで）
茶業試験場は農林技術研究所茶業研究センターとなり、富士分場を廃止する
- 20年3月 仁田実証ほ場（7号ほ場）を用途廃止し、空港部へ所属替えを行う
- 20年11月 茶業研究センター創立100周年記念式典及び記念行事を挙行
- 22年4月 組織改正により栽培育種科、生産環境科及び商品開発科を設置
- 24年8月 発酵茶ラボを開設する
- 30年4月 組織改正により茶生産技術科、茶環境適応技術科及び製茶加工技術科を設置
- 30年11月 茶業研究センター創立110周年記念式典及び記念行事を挙行
- 令和2年4月 組織改正により製茶加工技術科を新商品開発科に改称
- 5年4月 発酵茶ラボを拡充、食品等加工機器を導入し、新たにChaOIファクトリーを開設
- 7年4月 本館の建替工事が完了し、開所式を挙行。本館にオープンラボを開設
- 8年2月 別館の改修工事が完了する

（果樹研究センター）

- 昭和15年4月 清水市駒越に柑橘試験場創設
- 16年4月 農業試験場病害虫研究所（沼津市内浦）の閉鎖と共に本場に業務移管
- 22年4月 本場機構整備により庶務会計、栽培、育種、病害虫、化学加工、練習生養成の6部門を設定
- 23年2月 浜松市葵町に西遠果樹分場創設
- 23年5月 賀茂郡城東村（現・東伊豆町）奈良本に伊豆分場創設
- 25年4月 引佐郡三ヶ日町に三ヶ日母樹園開設
- 30年11月 練習生養成部門を柑橘技術講習所として昇格併設
- 32年4月 本場機構を改め、総務、栽培化学、柑橘保護の3課制を設定
- 36年4月 本場機構一部改正により栽培化学課を栽培、化学の2課に分立
- 40年4月 柑橘技術講習所を柑橘専門研修所に改称
- 40年4月 柑橘試験場西遠果樹分場が組織改正により西遠農業センター果樹科と改称
- 40年7月 伊豆分場を東伊豆町稲取字上野に改築移転
- 43年3月 伊豆分場本館並びに付属施設の完成に伴い竣工式を挙行
- 43年4月 試験場機構を改め普及課を新設
- 43年12月 三ヶ日母樹園施設整備のため、本館、付属施設の工事着工
- 44年10月 本場のほ場整備工事着工
- 44年11月 三ヶ日母樹園の本館、付属施設の完成に伴い竣工式を挙行
- 45年4月 研究課制廃止によりスタッフ制となる
- 45年11月 本場の整備拡充事業の完成に伴い竣工式を挙行
- 47年9月 北山にほ場を開園
- 48年11月 設立委員と関係者を招集して収穫祭を挙行

昭和49年2月 天皇・皇后両陛下下行幸啓

49年4月 三ヶ日母樹園が西遠分場に昇格

49年4月 柑橘専門研修所を県立農業短期大学校柑橘学科に改称

50年12月 皇太子・同妃殿下行啓

51年4月 農業試験場落葉果樹試験地が機構改正により、柑橘試験場落葉果樹試験地となる

55年4月 県立農林短期大学校果樹分校が設置される

62年4月 柑橘試験場落葉果樹試験地を柑橘試験場落葉果樹分場に改称

62年11月 落葉果樹分場本館並びに付属施設の改築移転

平成 2年11月 柑橘試験場設立50周年記念式典及び記念行事を挙げる

11年4月 県立農林短期大学校果樹分校を県立農林大学校果樹分校に改称

13年4月 みかん光センサープロジェクトスタッフを新設（平成15年度まで）

17年3月 機構改正により、普及課を廃止

17年4月 樹園地環境負荷軽減プロジェクトスタッフを新設（平成19年度まで）

19年4月 柑橘試験場、農業試験場、茶業試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編
柑橘試験場は農林技術研究所果樹研究センターに、落葉果樹分場は農林技術研究所果樹研究センター落葉果樹研究拠点として存置、伊豆分場を伊豆農業研究センターとし、西遠分場を廃止

21年4月 リン資源循環プロジェクトスタッフ（3名）を新設（平成23年度まで）

22年4月 組織改正により栽培育種科及び生産環境科を設置。落葉果樹研究拠点を落葉果樹科とする

22年10月 果樹研究センター70周年研究成果発表会を開催

27年10月 耐震性能が不足する果樹研究センター（静岡市清水区駒越西）と落葉果樹科（浜松市北区都田町）を統合し、静岡市清水区茂畑地区の県営畑総事業地内の創設非農用地（現在地）へ庁舎移転

30年4月 農林技術研究所の研究科体制再編成により、栽培育種科、生産環境科及び落葉果樹科を、果樹生産技術科、果樹環境適応技術科及び果樹加工技術科に改称

（森林・林業研究センター）

昭和28年 健全で生産性の高い森林を造成するため、優良種苗の確保と林木の品種改良を目指した林業に関する試験研究機関の設置の気運が高まり、建設計画が表面化

30年4月 2ヵ年計画をもって、林業試験場建設に着手。総工費3,000万円

32年3月 「静岡県林業試験場規程」（静岡県訓令第3号）の制定

32年4月 浜北市於呂（現在地）に「林業試験場」発足。3課1分場（庶務課、育種課、経営課、及び上狩野分場）

36年4月 上狩野分場は農業試験場に移管（わさびの研究は農業試験場へ移管、椎茸の研究は林業試験場本場で引き継ぐ）

39年4月 庶務課を総務課に組織替え

43年4月 育種課を育林課に組織替え

44年4月 林業機械化指導所を川根分場と改称

45年4月 研究分野の課制廃止に伴い、育林、経営、普及の3スタッフ制となる

47年4月 川根分場を金谷林業事務所に移管

60年6月 時代に即した林業試験研究機関の“あるべき姿”を検討するため「林業試験研究体制整備検討委員会」を設置

- 昭和60年10月 同委員会より、「静岡県林業技術センター（仮称）構想について」提言
- 61年4月 提言に基づき、基本設計及び実施設計作成に着手、事業費42,500千円
- 62年4月 新庁舎の整備に着手。事業費1,517,850千円
- 63年4月 静岡県行政組織規則の改正に伴い、「静岡県林業技術センター」と改称
- 平成7年4月 静岡県行政組織規則の改正に伴い、「きのこ総合センター」を東部農林事務所から移管
- 12年4月 研究需要の多様化に対応するため、機能性炭化物プロジェクトスタッフを新設（平成14年度まで）
- 19年4月 林業技術センター、農業試験場、茶業試験場、柑橘試験場を統合し、農林技術研究所に再編
林業技術センターは農林技術研究所森林・林業研究センターとなる。きのこ総合センターは東部農林事務所に移管
広葉樹遺伝子プロジェクトスタッフを新設（平成21年度まで）
- 22年4月 組織改正により森林育成科及び木材林産科を設置
ニホンジカ低密度化プロジェクトスタッフ（4名）を新設（平成24年度まで）
- 29年11月 森林・林業研究センター60周年記念講演会を開催
- 30年4月 組織改正により木材林産科を森林資源利用科とする

②施設概要

◎農林技術研究所本所 (加茂・三ヶ野を含む)

(単位: m ²)			
土地	施設用地		7,370.98
	圃場		71,479.00
	その他(駐車場ほか)		137,537.83
			216,387.81
建物	本館	鉄筋コンクリート造3階	3,578.09
	資料館	鉄筋コンクリート造1階	1,214.28
	旧庁舎	軽量鉄骨造1階	549.85
	生物工学研究施設	鉄筋コンクリート造2階	558.00
	三ヶ野圃場管理研究棟	重量鉄骨造1階	864.00
	その他(車庫、準備室ほか)		3,312.01
			10,076.23

○伊豆農業研究センター (大久保試験地を含む)

(単位: m ²)			
土地	施設用地		829.84
	圃場		33,639.00
	その他(駐車場ほか)		74,982.02
			109,450.86
建物	本館	重量鉄骨造2階	547.56
	管理舎	重量鉄骨造1階	175.85
	その他(車庫、堆肥舎ほか)		372.96
			1,096.37

○わさび生産技術科

(単位: m ²)			
土地	施設用地		243.41
	圃場		4,299.00
	その他(駐車場ほか)		42.89
			4,585.30
建物	庁舎	軽量鉄骨造2階	357.72
	作業舎兼倉庫	木造1階	59.63
			417.35

◎茶業研究センター

(単位: m ²)			
土地	施設用地		4,526.80
	圃場		31,000.00
	その他(駐車場ほか)		22,455.66
			57,982.46
建物	本館	鉄骨鉄筋コンクリート造4階	2,791.89
	別館	鉄筋コンクリート造2階	825.00
	新製品実験棟	鉄骨鉄筋コンクリート造1階	1,134.00
	製茶実験棟	鉄骨鉄筋コンクリート造1階	890.33
	その他(作業舎、車庫ほか)		893.56
			6,534.78

◎果樹研究センター

				(単位: m ²)
土地	施設用地		10,470.00	
	圃場		32,513.00	
	その他(駐車場ほか)		10,921.00	
	※静岡市から無償借受		53,904.00	
建物	庁舎	重量鉄骨造2階	2,162.40	
	農機具保管庫	軽量鉄骨造1階	536.89	
	車庫	軽量鉄骨造1階	230.48	
	貯蔵庫	木造モルタル造1階	74.52	
	その他(堆肥舎、油庫ほか)		167.11	
			3,171.40	

○旧都田圃場

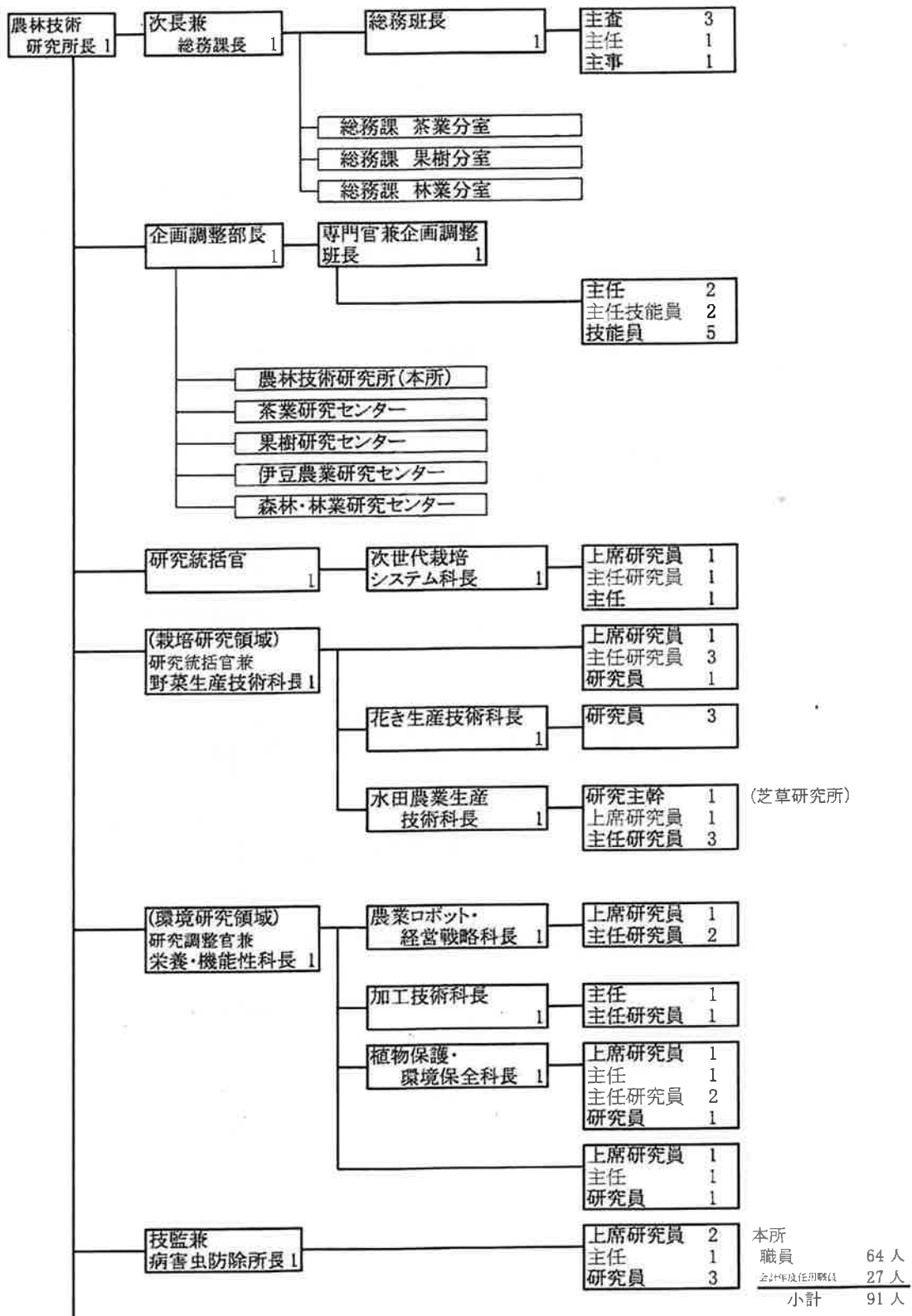
				(単位: m ²)
土地	圃場跡地		13,172.89	
			13,172.89	

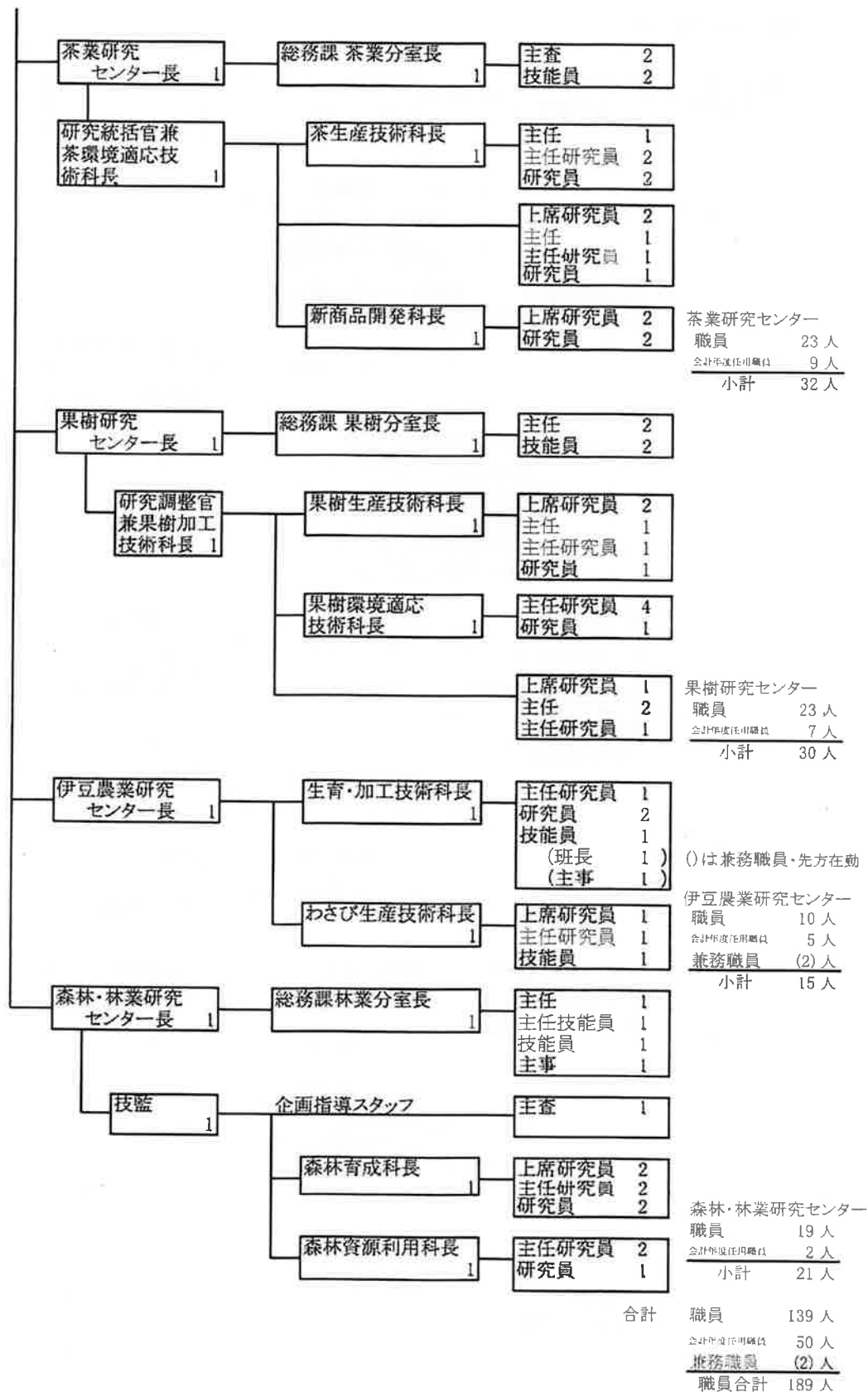
◎森林・林業研究センター

				(単位: m ²)
土地	施設用地		4,088.37	
	苗畑		6,578.00	
	森の科学園		7,835.00	
	その他(駐車場ほか)		40,644.59	
			59,145.96	
建物	本館	木造2階	989.34	
	研究棟	鉄筋コンクリート造2階	1,330.10	
	木材実験棟	木造1階	349.70	
	機械実験棟	木造1階	285.00	
	森の科学館	木造1階	214.90	
	その他(車庫ほか)		921.30	
			4,090.34	

③ 組織図

(令和8年4月1日現在)





() は 兼務職員・先方在勤

(2) 事務又は事業の目的、計画及び実績（成果）並びに評価（課題等）及び改善

①総務事務

ア 組織及び人事管理

農林技術研究所の組織は、本所（1課、1部、8科、1所）、茶業研究センター（1分室、3科）、果樹研究センター（1分室、3科）、伊豆農業研究センター（2科）、森林・林業研究センター（1分室、1スタッフ、2科）で構成され、令和8年4月1日現在の職員数は本所91名、茶業研究センター32名、果樹研究センター30名、伊豆農業研究センター15名、森林・林業研究センター21名である。（いずれも兼務職員を除き、会計年度任用職員を含む。）

職員の配置及び事務分担については、担当する事業量、職員の経験・能力・専門性等を考慮し、適材適所の配置に努めている。

イ 綱紀の保持と交通事故防止

綱紀の保持については、職員に対して所内連絡会議などを通じてコンプライアンスの周知徹底を図るとともに、ミーティングでの事例検討等により職員の意識向上に努めている。

安全運転の徹底（交通事故防止）については、本所及び各センターにおいて、所属職員に対して交通安全の呼び掛け、交通安全講習会の開催など、日頃から様々な機会を通じて職員一人ひとりの安全意識の高揚に努めている。

ウ 健康管理

職員の健康管理については、定期健康診断、人間ドック、成人病検診等の健康診断の受診はもとより、VDT作業従事者検診、腰痛検診等の特別健康診断や健康指導課の健康相談についても積極的に受診するよう指導するとともに、健康管理区分に基づく事後指導についても積極的に参加できるよう配慮し、職員が自らの健康管理に努めるよう指導している。

また、本所では衛生委員会を設置するとともに、各センターでは衛生担当者が中心となり、職員の健康保持と職場の作業環境の改善に努めている。

さらに、日頃から職員がスポーツする機会を整え、球技大会に積極的に参加できるよう配慮するなど、体力づくりとともに職場におけるコミュニケーションの向上に努めている。

エ 職員研修

職員が各種研修会、講習会及び学会等の機会に参加できる環境づくりに努め、職員の資質、知識・技術の向上を図っている。

オ 予算経理及び財産管理

予算執行については、正確かつ迅速な事務処理に努めるとともに、財務規則を遵守した適正な会計事務の執行を図るように留意している。

また、物品・財産管理についても、適切な維持管理に努め、有効活用を図っている。

[評価（課題等）及び改善]

・交通事故防止

令和7年度は、公務中の交通事故は発生しなかったが、職員の交通安全意識の徹底のため、安全運転啓発、早めのライト点灯の呼び掛け等の活動を通して、運転時の交通安全に関する責任と自覚を促し、公務内外での無事故・無違反の達成を目指す。

・労働安全衛生

令和7年度は、公務災害（通勤災害を含む）は8件発生したことから、引き続き安全衛生意識の徹底を図る。具体的には、試葉・農薬等の保管状況の点検、農機具操作安全講習会の実施・研修等を通して、現場の実情に応じた安全対策を実施し、労働安全の確保に努める。また、通勤の際にも、十分に注意をするよう、安全意識の自覚を促す。

職員の健康管理については、健康診断の受診の徹底を図るとともに、心の健康についても職場内でのストレスの緩和に充分配慮し、加えて職員が相談しやすい雰囲気を整え、誰もが働きやすい職場を目指して環境整備を進める。

さらに、時間外勤務の縮減を目指し、職員に対して効率的な業務執行を呼び掛けると同時に、休暇取得の促進を通じて、健康管理の増進に努めていく。

②試験研究

ア 試験研究の推進

(ア) 試験研究基本方針

農林業を取り巻く社会経済情勢や農林業生産構造等の変化に対応し、経済産業ビジョンの目標を達成するため、農林業技術開発に対するニーズが一層多様化・高度化する中で、目標を明確にして技術開発を推進する。

試験研究の基本戦略

戦略推進のポイント

- 社会変化に伴う新たな課題を解決する研究開発・社会実装への貢献
- 新しい価値を創造するオープンイノベーションによる研究の一層の推進
- 技術革新を支える人材の育成や研究資源の活用等のマネジメントの強化



試験研究の重点方向

1 イノベーションを促進する 「研究開発」

本県産業のイノベーションを促進する研究開発に注力

- ・AI、DXの進展や脱炭素等の新たな政策課題や、新たな可能性や競争力を生み出すスマート農林業等の研究領域に積極的に取り組み、その成果を社会実装につなげる
- ・オープンイノベーションによる研究を推進

2 地域産業の持続的発展を支える 「技術支援」

研究所のコア技術や設備を活用し、地域産業への技術支援を積極的に推進

- ・農林事務所、生産者団体等と連携し、新技術の社会実装や新商品開発を支援
- ・スタートアップ等への技術支援

3 安全・安心な県民生活に貢献する 「調査研究」

安全・安心な県民生活に貢献する調査研究を強化

- ・気候変動に伴う農林産物の生育への影響等に関する調査研究を強化
- ・土壌炭素やスギ花粉着花量のモニタリング実施を継続

農林技術研究所の重点取組

①生産性を向上するスマート農林業・農林業DXの社会実装の加速化

○スマート農林業、農林業DX等の新技術による高効率生産体系の確立

- ・高効率・省力生産体系及び栽培様の確立
- ・先進的センシング技術による生育予測や栽培支援ツール等の開発
- ・経営、作業管理、品質流通のデジタル化技術の開発
- ・種苗の安定生産体制の確立
- ・早生樹の更新・育林技術及び活用方法の確立

②需要に応じた新商品・製品化技術の開発による静岡農林産物のブランド強化

○育種期間を短縮するスマート育種システムの開発

- ・DNAマーカー、AI画像解析、ゲノム編集等によるスマート育種技術の構築

○オリジナル品種の開発及び安定供給体制の確立

- ・産地間競争に勝つオリジナル品種開発

○農林産物の付加価値向上技術や製品化技術の開発

- ・機能性成分を増加させる栽培技術及び加工技術の開発
- ・新たな木質材料の開発
- ・未利用資源の加工技術の開発
- ・生育調節、出荷予測技術の開発と多品目への展開

③気候変動に対応し、脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進

○持続的な農林業を促進する技術開発

- ・堆肥等有機物活用と施肥効果向上技術の開発
- ・新規病害虫の防除法の開発
- ・化学農薬に替わる個別防除技術の開発と体系化
- ・有機栽培における省力・安定生産技術の開発
- ・省エネルギー栽培技術の確立
- ・野生動物監視・侵入・防除技術及び排除・削減技術の開発

○気候変動への対応と、脱炭素社会の実現に貢献する研究開発

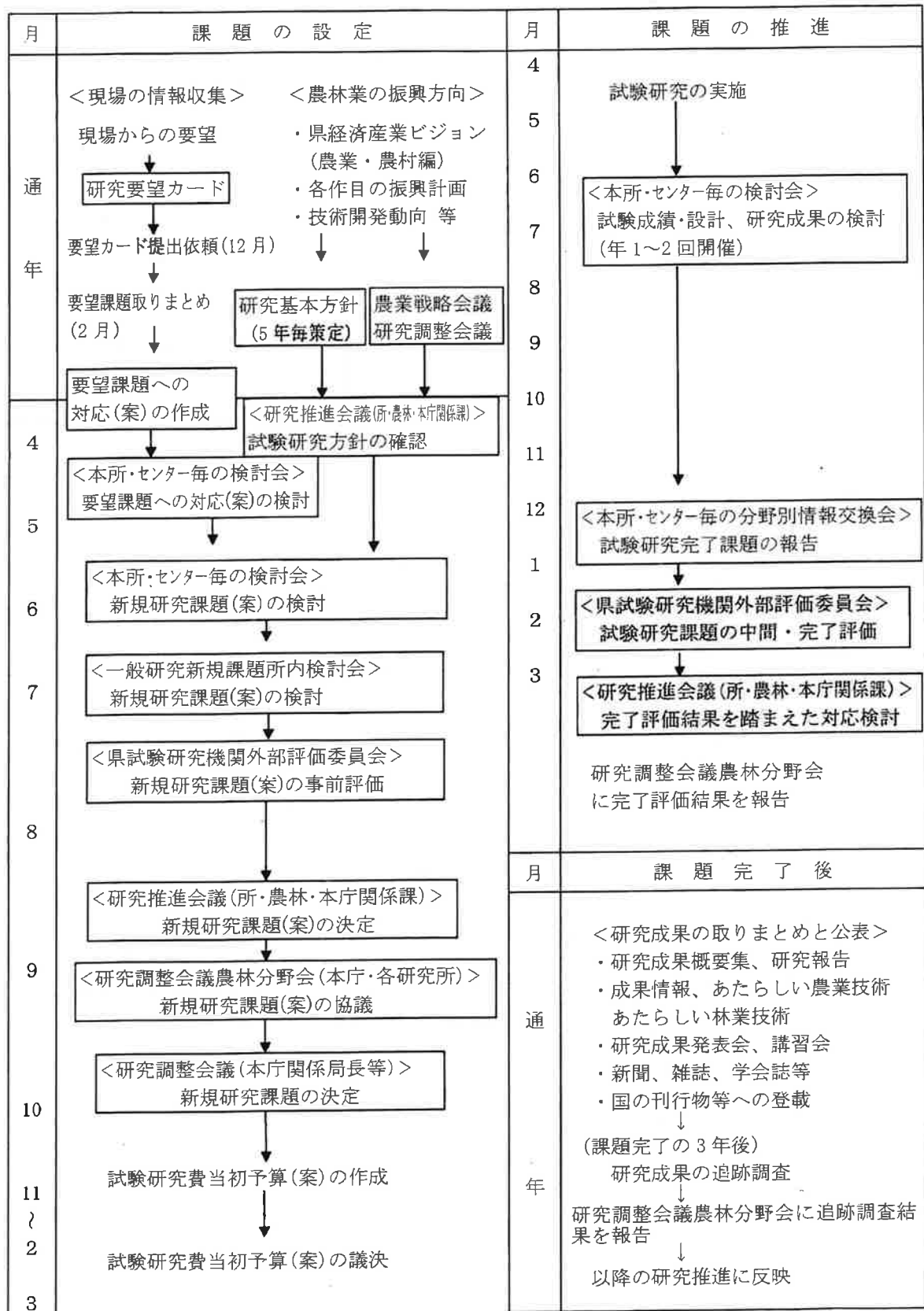
- ・耐暑性等、気候変動や災害に強い新品種や安定生産技術の開発
- ・J-クレジット活用等、脱炭素に資する生産方法の確立

○農地や森林の公益的機能の増進

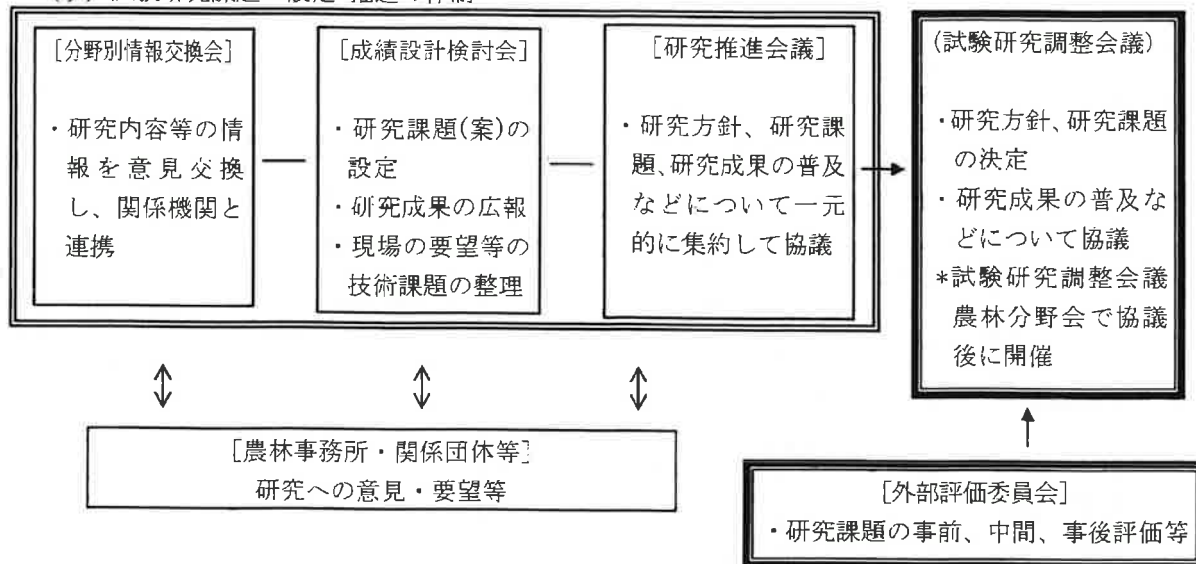
- ・森林の水涵養等の公益的機能を増進する技術の開発

※ 技術支援及び事業的業務は除く

(イ) 試験研究課題の設定・推進の流れ



(ウ) 試験研究課題の設定・推進の体制



[分野別情報交換会]: 本所・各センターの開催（生産者、関係JA等）

[成績設計検討会]: 本所・各センターの開催、本庁関係課、農林事務所の参加

[研究推進会議]: 所長、各センター長・企画調整部長・研究統括官・技監、本庁関係課、各農林（計24名）

(試験研究調整会議): 本庁関係局長等

(試験研究調整会議農林分野会): 本庁農業局長・森林・林業局長・関係課長等

[県試験研究機関外部評価委員会]: 研究評価委員（知事が委嘱する外部評価委員15名、うち農林技術研究所担当は3名）

(エ) 試験研究課題の状況

a. 研究要望と研究採択

年度 注1)	部 門	研究要望数	研究要望 処理数注2)	研究採択数 注3)	採択率(%) 注4)
7	農 業 一 般	46	83	43	51
	伊 豆 農 業	4	5	4	80
	茶 業	17	23	14	60
	果 樹	18	31	22	70
	森 林 ・ 林 業	15	24	11	45
	計	100	166	94	57
8	農 業 一 般	48	80	35	44
	伊 豆 農 業	9	9	8	89
	茶 業	9	25	10	40
	果 樹	13	22	11	50
	森 林 ・ 林 業	14	25	10	40
	計	93	161	74	46

注1) 年度は、新規課題開始年度を表示

2) 1研究要望に複数の研究要望が含まれるため、研究要望処理は研究要望数より増加する

3) 採択数は、新規課題及び既存課題対応の合計

4) 採択率は、採択数／研究要望処理数×100(%)として算出

b. 試験研究課題数

(a) 所属別研究課題数

所 属	令和7年度			令和8年度		
	継続	新規(要望)	計	継続	新規(要望)	計
本所	20	6	26	18	4	22
茶業研究センター	7	5	12	9	6	15
果樹研究センター	5	5	10	8	1	9
伊豆農業研究センター	9	3	12	4	3	7
森林・林業研究センター	6	4	10	8	1	9
計	47	23	70	47	15	62

※本所、センター間の重複課題を含む

(b) 作目別研究課題数

作 目	令和7年度			令和8年度		
	継続	新規(要望)	計	継続	新規(要望)	計
作物	1	0	1	0	1	1
野菜	10	2	12	6	3	9
花き	5	1	6	3	0	3
茶業	7	5	12	10	6	16
果樹	9	5	14	10	3	13
農業関係共通	11	1	12	10	1	11
森林・林業	6	4	10	8	1	9
計	49	18	67	47	15	62

※作目間の重複課題を含む

(c) 基本方向別研究課題数

令和7年度		令和8年度	
基 本 方 向	計	基 本 方 向	計
スマート農林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発	15	生産性を向上するスマート農林業・農林業DXの社会実装の加速化	15
マーケットインに応える新商品開発による静岡農林産物のブランド力強化	20	需要に応じた新品種・製品化技術の開発による静岡農林産物のブランド強化	16
気候変動・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進	35	気候変動に対応し、脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進	31
計	70	計	62

c. 新成長戦略研究一覧（令和7年度）

(a) 通常研究

研究課題名（研究期間）		機 関	研究員数
1	チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築（4－8）	茶業研究センター 農林技術研究所 伊豆農業研究センター	13人
2	温州ミカン栽培の超省力、超多収、高収益を実現する片面結実法の開発（5－9）	果樹研究センター 農林技術研究所	13人
3	流通・消費ニーズに対応！ DXを活用した農芸品の出荷予測・開花調節システムの構築（6－8）	農林技術研究所 伊豆農業研究センター	14人
4	未利用茶葉等の多用途加工技術の開発（6－8）	茶業研究センター 農林技術研究所 工業技術研究所	11人 (工技研3)
5	生産ロス削減に向けた ICT・AI を活用した静岡みかん等安定生産技術の開発（7～11）	果樹研究センター	8人
6	県産材製品を非住宅分野へ利用拡大するための技術開発（7～9）	森林・林業研究センター	4人

(b) 政策課題指定枠

新ビジョンに掲げる、脱炭素化やデジタル化などの新たな政策課題の解決に貢献するため、経済産業部長のトップダウンにより新たな研究領域への研究を実施する。

研究課題名（単年度）	機 関	研究員数
地域有機質資源の肥料化による循環システムの構築	農林技術研究所	3人
夏季の異常高温等気象変動リスクを軽減する農産物生産技術・品種の開発	農林技術研究所 伊豆農業研究センター	12人

(c) 職員提案型チャレンジ研究（クラウドファンディング）

試験研究の水準の維持・拡充のため、外部資金による研究事業を実施する。クラウドファンディング(CF)を通じ、研究員の企画・提案力や研究開発のスキル向上を図る。

研究課題名（単年度）	機 関	研究員数
至高の逸品「温室メロン」を、最高のタイミングで味わってほしい！ （小型でIoT化されたメロン熟度計と連携アプリの開発）	農林技術研究所	1人
高品質な「原木生シイタケ」を食卓に届けたい！ （原木生シイタケにおけるキノコバエ類被害予防技術の現地実証）	森林・林業研究センター	1人

[評価・改善]

- ・ 本県農林業の新たな成長に貢献するため、産学官民が連携し、重点的な研究活動を行った。
- ・ 農林業者、関係団体、行政等から研究ニーズに関する情報収集を積極的に行い、新成長戦略研究につながる研究課題を探索し設定に努めた。

- ・今後も、政策課題に対応した研究課題を設定するため、準備段階から行政機関・大学・民間等から情報を集めるとともに、連携を強化していく。

d. 国庫関連等外部資金研究課題一覧（令和7年度）

事業の種類	研究課題名（研究期間）	担当部署
国庫交付金事業	1 A O I プロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発（4-8）	次世代栽培システム科
	2 イチゴ炭疽病の新たな育苗時防除技術体系の構築（6-8）	植物保護・環境保全科
	3 チャ炭疽病の DMI 感受性検定と、耐性菌の発生リスクを軽減させる防除手法の構築（7-9）	茶研セ 茶環境適応技術科
	4 チャノコカクモンハマキの有効薬剤の選抜及び交差抵抗性の調査（7-9）	茶研セ 茶環境適応技術科
	5 早生樹の生産性向上技術の開発（7-11）	森研セ 森林育成科
国庫委託事業	1 環境制御技術等を活用した気象変動リスクに対応した花き生産技術の確立（7-9）	花き生産技術科
	2 イチゴ栽培における2大最重要病害虫を対象とした総合防除体系の確立（7-9）	植物保護・環境保全科
	3 害虫吸引ロボットと天敵を利用した大規模施設トマトのコナジラミ防除体系の開発（4-9）	植物保護・環境保全科
	4 次世代型抵抗性誘導剤等を活用した野菜類重要病害の効果的な防除技術の開発（7-9）	植物保護・環境保全科
	5 県内主要農耕地の地力調査および炭素貯留量の把握（6-10）	栄養・機能性科
	6 メロンのエチレン制御による長期貯蔵技術の確立（7-9）	加工技術科
	7 スマート農業技術の開発と実証（7-9）	農業ロボット・経営戦略科
	8 蒸気を利用した「茶の有機栽培向けスマート乗用複合管理機」の開発（7-8）	茶研セ 茶生産技術科
	9 遺伝的かつ化学的制御に基づいたチャ萌芽期の精密調整技術の開発（6-8）	茶研セ 茶生産技術科
	10 多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定（3-7）	果研セ 果樹生産技術科
	11 カンキツ害虫の薬剤抵抗性管理体系の確立（3-7）	果研セ 果樹環境適応技術科
	12 果樹せん定枝等を活用したバイオ炭の製造、施用体系の開発（5-9）	果研セ 果樹環境適応技術科 果樹生産技術科
	13 水田転換園における片面交互結実栽培の増収、省力化および収穫時期延長技術の開発（7-11）	果研セ 果樹環境適応技術科 果樹生産技術科
	14 林業用主要樹種の種苗生産と造林技術の改良に関する研究（5-9）	森研セ 森林育成科
	15 大径材の活用による国産材製品の安定供給システムの開発（5-7）	森研セ 森林資源利用科

〔評価・改善〕

- ・国等の競争的資金に積極的に応募し、研究予算の確保に努めた。
- ・外部資金獲得のための情報収集、研究機関同士の連携強化に努めた。
- ・今後も、国等の競争的資金を積極的に活用し、研究予算の確保を図っていく。

e. 共同研究課題一覧（令和7年度）

共同研究課題名（研究期間）		担当部署	共同研究機関
1	AOIプロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発（4-8）	次世代栽培システム科	山本電機㈱、㈱まえばー、㈱石井育種場、（一財）MaOI機構、アライドカーボンソリューションズ㈱、農研機構、東都興業（株）、京都大学
2	突然変異育種等を活用した黄色輪ギク品種の育成（4-8）	花き生産技術科	静岡大学
3	チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築（4-8）	野菜生産技術科	㈱フィトメトリクス
4	レタスの気象変動に対応した安定生産技術の開発と生育予測精度の向上（5-7）	水田農業生産技術科	㈱大善
5	県内主要農耕地の地力調査および炭素貯留量の把握（6-10）	栄養・機能性科	農研機構農環研他
6	GNSSによる位置精度が低い環境下で安定して自律走行可能な自律走行草刈機の開発（7-9）	本所 農業ロボット・経営戦略科	Workauto 株式会社、筑波大学、農業戦略課
7	天然アシルスペルミジンを基盤とする新規病害抵抗性誘導剤の開発（5-9）	本所 植物保護・環境保全科	東京大学、福井県立大学、農研機構、福島県、㈱アグロデザイン・スタジオ
8	害虫防除および安定栽培のための振動農業技術の開発と実用化（5-9）	本所 植物保護・環境保全科	九州大学、農研機構宮城県、兵庫県、福岡県、森林機構、電気通信大学、東北特殊鋼㈱
9	受粉ドローンと害虫防除ロボットのための自動制御技術の開発と普及（7-9）	本所 植物保護・環境保全科	日本工業大学、東都興業㈱、㈱エフ・シー・シー、㈱光電製作所、同志社大学、電気通信大学、ピクシーダストテクノロジーズ㈱、農研機構、福島大学、森林研究・整備機構、鳥取大学
10	堆肥・緑肥等の有機物施用による炭素貯留・化学肥料削減技術の開発（6-8）	本所 栄養・機能性科	一般財団法人マリノオープンイノベーション機構（MaOI機構）
11	政策ニーズに対応した革新的新品種開発（高日持ち性メロンの開発）（7-9）	本所 加工技術科	農研機構、筑波大学、サナテックライフサイエンス㈱
12	夏季の異常高温等気象変動リスクを軽減する農産物生産技術・品種の開発（7-8）	伊豆農業研究センター わさび生産技術科	静岡大学
13	ドリンク向け茶生産システムの確立（5-7）	茶業研究センター 茶生産技術科 新商品開発科	カワサキ機工㈱ 他
14	蒸気を利用した「茶の有機栽培向けスマート乗用複合管理機」の開発（7-8）	茶業研究センター 茶生産技術科	カワサキ機工㈱ 他
15	遺伝的かつ化学的制御に基づいたチャ萌芽期の精密調整技術の開発（6-8）	茶業研究センター 茶生産技術科	静岡大学、農研機構果樹茶業研究部門 他

16	温州ミカン栽培の超省力、超多収、高収益を実現する片面結実法の開発（５－９）	果樹研究センター 果樹生産技術科 果樹環境適応技術科	ＪＡしみず 静岡県農林環境専門職大学
17	多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定（３－７）	果樹研究センター 果樹生産技術科 果樹加工技術科	農研機構果樹茶業研究部門
18	生産ロス削減に向けた ICT・AI を活用した静岡みかん安定生産技術の開発（R7-R11）	果樹研究センター 果樹生産技術科 果樹加工技術科	JA みっかび、ニッコウプロセス（株）、（株）浜松パルス、静岡県立専門職大学
19	スギエリートツリー等の交配系統のコンテナ苗を利用した相互植栽試験（29-7）	森林・林業研究センター 森林育成科	（国研）森林総合研究所 林木育種センター
20	ソルビタントリオレート（ST0）を利用したスギ花粉飛散防止に関する研究（５－７）	森林・林業研究センター 森林育成科	東京農業大学
21	スギ次世代優良系統の選抜に関する研究（７）	森林・林業研究センター 森林育成科	株式会社ノダ
22	早生樹の成長特性の解明（５－７）	森林・林業研究センター 森林育成科	株式会社ノダ
23	静岡県東部に適応するユーカリの選抜に向けた調査・研究（７）	森林・林業研究センター 森林育成科	小山町
24	FineOSB を非住宅分野に活用するための技術開発（７）	森林・林業研究センター 森林資源利用科	静岡県立農林環境専門職大学、MGC ウッドケム株式会社
25	シカを群れごと捕獲可能な「わな」の開発（７）	森林・林業研究センター 森林育成科	株式会社ヤマイチネット
26	防潮堤植栽地（海岸防災林）に繁茂するクズ（葛）の効率的な対策手法の確立（７）	森林・林業研究センター 森林育成科	株式会社 カーリット、ホクサン株式会社
27	薄型小幅内装仕上集成板を用いた耐力壁の実験的研究（７）	森林・林業研究センター 森林資源利用科	公立大学法人静岡文化芸術大学

〔評価・改善〕

- ・試験研究を効率的に推進するため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、民間企業や大学等との共同研究を推進した。
- ・静岡県立農林環境専門職大学との連携を強化するため、「静岡県農業・畜産・林業技術研究連携会議」を開催し、情報提供、意見交換を実施した。
- ・連携協定等を締結した県内大学と新たな分野等において研究活動の拡大に努める。

（オ）試験研究課題の推進

a. 所全体の研究推進

農林技術研究所の試験研究を関係機関と連携して、効率的かつ効果的に推進するために研究推進会議を実施した。（令和 7 年度）

区 分	開 催 日	開 催 内 容
研究推進会議	6 月 4 日	R7 試験研究課題、試験研究要望について
	9 月 25 日	R8 新規試験研究課題及び新成長戦略研究課題等について
	3 月 9 日	R7 試験研究成果及び R8 新規試験研究課題について

〔評価・改善〕

- ・研究の要望、課題の設定、研究の内容などについて関係機関から意見を聞き、研究課題に反映した。
- ・農林事務所に対し、情報提供や調査への協力依頼を行うとともに、普及指導員研修や研究成果発表会などをおして、研究成果の効果的な普及に努めた。

b. 本所・各センターの研究推進

本所、各センターにおいて部門ごとに、情報交換や研究課題の設計・成果の検討を実施した。

機 関	区 分	開 催 内 容	回数
本 所	分野別情報 交換会	トマト意見交換会 イチゴ情報交換会 花き(輪ギク・バラ・ガーベラ)情報交換会 AOI プロジェクト研究成果発表会	1 1 3 1
	成績・設計検 討会 ^(注)	AOI プロジェクト、野菜、花き、作物、機械・経営、品質・商 品開発、植物保護、土壌環境の分野別に年2回、試験研究 課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	16
茶業研究 センター	茶業分野別 情報交換会	研究成果発表会 経済連・農協等技術研修会 茶品評会・審査会等での技術指導、情報交換 茶普及指導員との情報交換会	1 7 18 2
	成績・設計検 討会 ^(注)	試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	2
果樹研究 センター	果樹分野別 情報交換会	研究成果発表会 落葉果樹、柑橘品評会での審査、情報交換 経済連・農協等技術研修会	1 12 22
	成績・設計検 討会 ^(注)	試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	3
伊豆農業研 究センター	伊豆農業 情報交換会	試験研究要望の収集、賀茂宮農技術員会	2
	成績・設計検 討会 ^(注)	年2回、試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績を 検討	2
森 林・林 業研究セ ンター	森林分野別 情報交換会	研究成果発表会	3
	成績・設計検 討会 ^(注)	試験研究課題の進捗状況(年度当初、年度途中) 試験研究課題の試験設計、研究成績の検討	4

注) 成績・設計検討会の構成員

本 所 : 所長、次長、企画調整部長、研究統括官、技監、研究員、革新支援専門員、普及指導員
各センター : 所長、センター長、研究統括官、技監、研究調整官、研究員、革新支援専門員、
普及指導員

伊豆農業研究センター : 所長、センター長、研究員、革新支援専門員、普及指導員

[評価・改善]

- ・ 各分野の情報交換会において、農業者や農協等の関係団体に、研究成果を紹介し、新たな技術移転の情報を提供した。
- ・ 成績設計検討会では、専門分野ごとの研究設計や成果、進捗状況等について、普及指導員等の関係機関を交えた詳細な検討が実施できた。

c. 試験研究の評価

本所、各センターで農業一般、茶業、果樹、伊豆農業、森林・林業の部門ごとの研究評価委員会において、試験研究を効率的かつ効果的に推進するため、試験研究課題の計画の妥当性、進捗状況、研究の成果等の外部評価を実施した。

<評価の種類>

- ・ 事前評価：新規研究課題の選定に際して研究内容・計画等を評価する
- ・ 中間評価：研究課題の進捗状況や研究継続の必要性等を研究期間の中間年度に評価する
- ・ 事後評価：事後研究課題の目標達成度や成果等を評価する
- ・ 追跡調査：研究課題が完了した後、概ね3年後に研究の成果等を評価する

(令和7年度)

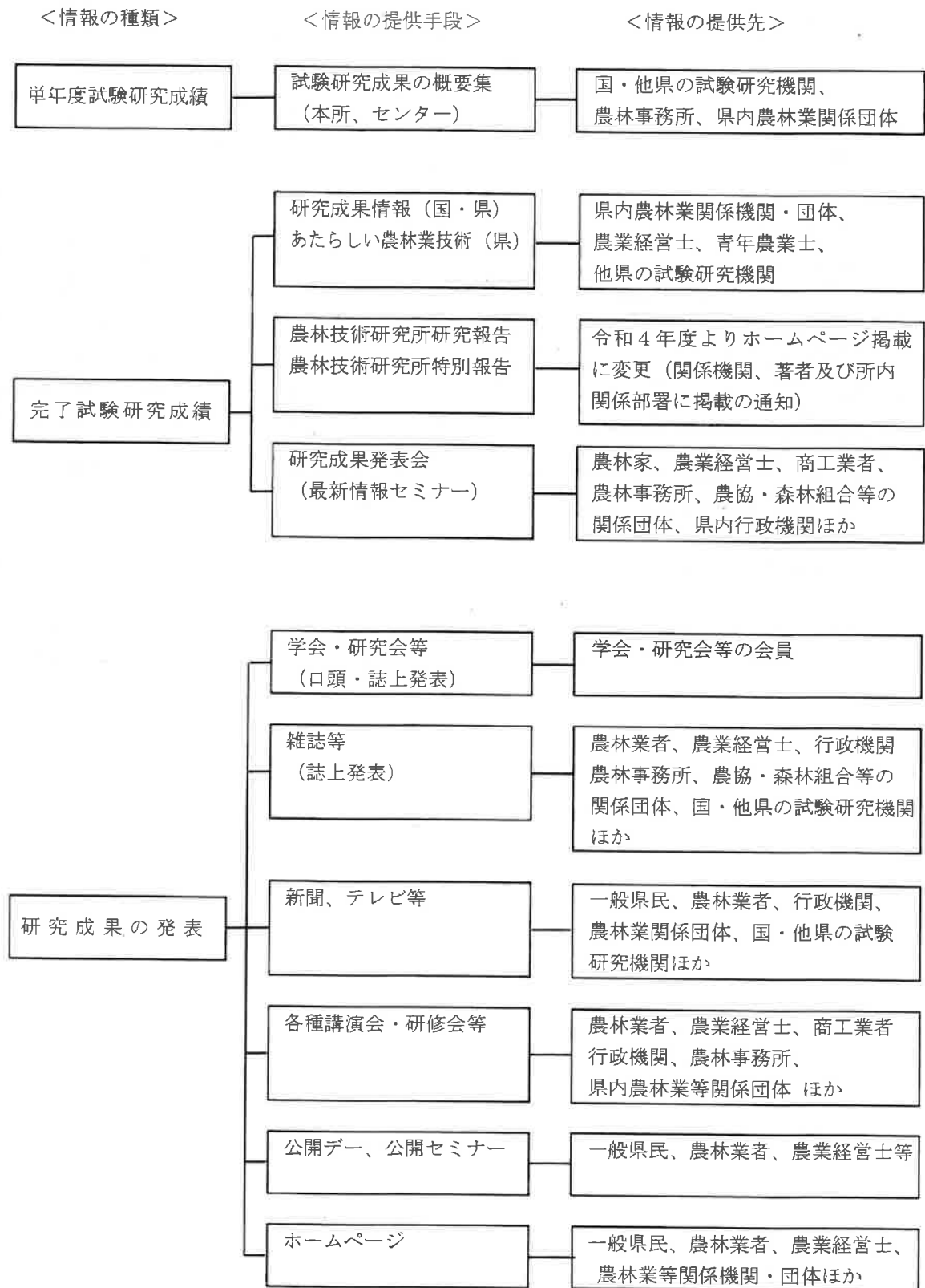
	部 門	事前評価 (件)	中間評価 (件)	事後評価 (件)	追跡調査 (件)	合計 (件)
新 成 長 研 究	農 業 一 般	0	1	0	0	1
	茶 業	1	2	0	2	5
	果 樹	0	2	0	0	2
	伊豆農業	0	0	0	0	0
	森林・林業	0	1	0	0	1
	計	1	6	0	2	9
一 般 研 究	農 業 一 般	2	8	0	0	10
	茶 業	2	1	0	0	3
	果 樹	0	2	0	0	2
	伊豆農業	1	3	1	2	7
	森林・林業	1	4	1	4	10
	計	6	18	2	6	32
合計		7	24	2	8	41

〔評価・改善〕

- ・「一般研究」「新成長戦略研究」の研究課題について、専門家や有識者からなる外部評価委員から、事前評価、中間評価、事後評価、追跡調査の時点に分けた評価を受けた。今後は、評価の結果をもとに、研究課題の進行管理や研究内容の向上に反映させる。
- ・「新成長戦略研究」4課題の中間評価では、13人の評価委員によって評価が実施された。C評価（継続すべきでない）を受けた課題はなかった。
- ・「一般研究」の中間評価は、2日間のべ6人の評価委員によって20課題が評価され、全ての課題について評価委員からA評価（継続すべき）を受けた。C評価（継続すべきでない）を受けた課題はなかった。

(カ) 試験研究成果の広報

a. 試験研究における情報の種類、提供手段及び提供先



b. 試験研究成果一覧

別 冊

c. 試験研究成果の概要集の印刷及び配布（令和 7 年度）

研究成果を概要集として取りまとめて関係機関に配布した。

新研究成果を概要集として取りまとめ、関係機関に配布した。						
種	類	農業一般、伊豆農業	茶 業	果 樹	森林・林業	計
試験研究成果	作成部数	電子データ	電子データ	140 部	電子データ	140 部
の概要集	配布先	県関係機関のみ	85 機関	113 機関	HP 公開	267 機関

d. 試験研究成果情報（令和 7 年度）

研究成果のうち普及等に移す試験研究課題を取りまとめた。

種 類	農業一般	茶 業	果 樹	伊豆農業	森林・林業	計
研究成果情報	9 件	1 件	8 件	1 件	2 件	21 件

e. 令和 7 年度 研究成果情報一覧

部 門	成 果 情 報 名
農業一般	・ 中干し期間を 1 週間から 2 週間に延長しても収量・品質への影響は軽微 ・ 春～夏季の遮熱剤塗布と低遮光率カーテン使用および、夜間冷房の利用により、ガーベラ切り花は増収する ・ 春～夏季の遮熱剤塗布と低遮光率カーテン使用および、夜間冷房の利用により、バラ切り花は増収する ・ イチゴ‘きらび香’超促成型栽培は普通栽培との間に果実品質に差はない ・ イチゴのヒラズハナアザミウマに最も有効な天敵製剤はククメリスカブリダニ ・ タバコカスミカメは温室メロンの果実品質に悪影響を及ぼさない ・ 灰色かび病の効果的な防除をサポートするアプリ「緑の病害チェッカー」 ・ タバココナジラミ卵、幼虫、成虫に対する市販の気門封鎖剤の殺虫効果 ・ ギニアグラスを用いた強酸性茶園土壌のクリーニング技術
茶 業	・ 市販のセンサを用いた「やぶきた」一番茶収量推定技術の開発
果 樹	・ 温州ミカンの双幹形樹形による省力的栽培管理技術の開発 ・ 薬剤散布回数の違いによるカンキツ黒点病の発病程度の評価 ・ カンキツリーフディスクを用いたアカマルカイガラムシの飼育及び薬剤感受性 ・ カンキツの剪定枝を活用したバイオ炭の製造方法 ・ カンキツの間伐樹を活用したバイオ炭の製造方法 ・ 腐植含有資材の土壌表層施用によるウンシュウミカンの樹勢向上 ・ 油圧ショベルを利用した土壌改良によるウンシュウミカンの樹勢向上 ・ ナシの花粉輸入停止に対応した人工交配用花粉の確保技術の開発
伊 豆	・ 新品種‘瑞季(みずき)’、‘汐里(しおり)’は伊豆地域で栽培されるカンキツとして有望である
森林・林業	・ 合板とバイオマス燃料に適した早生樹の選定 ・ 夜間の LED 照明で原木生シイタケのキノコバエ被害を防ぐ

f. 令和7年度 あたらしい農林業技術一覧

種 類	農業一般	茶 業	果 樹	伊豆農業	森林・林業	計
あたらしい農林業技術	0 件	1 件	1 件	1 件	1 件	4 件

部 門	あたらしい農業技術・あたらしい林業技術名
伊豆農業	水ワサビ二次増殖苗の安定生産技術
茶業	乗用型茶園管理機を活用した有機茶の栽培管理技術
果樹	温州みかん新品種「春しずか」の特性
森林・林業	既設のイノシシ用電気柵を活用したシカ・イノシシ併用侵入防止柵の設置技術

g. 令和7年度 農林技術研究所研究報告

		題名	公開方法
研究報告	原著論文	ウンシュウミカン‘青島温州’における肥効調節型肥料を用いた効率的な年2回施肥法	研究所 HPに掲載
		気候変動に対応したウンシュウミカン‘春しずか’の育成とその特性	
	短報	温度と光条件がジャカラダの種子発芽に及ぼす影響および挿し木時期が緑枝挿しの生育に及ぼす影響	
	技術資料	マイクロプレートリーダーを用いた酵素法による中玉トマトのγ-アミノ酪酸（GABA）含量の簡易測定法	
	論文抄録	ミカン作における運搬補助ロボット導入による作業軽労化の評価	
		2012～2018年に静岡県で分離されたネギ黒腐菌核病菌の薬剤感受性検定	
		促成栽培イチゴにおける春季以降のヒラズハナアザミウマに対する4種天敵剤の防除効果	
		トマトおよびバンカー植物クレオメに対するタバコカスミカメの植物選好性	
		各发育ステージにおけるイネカメムシの体サイズ：飼育個体と野外採集個体の比較による幼虫の齢期推定	
		静岡県の水田におけるウンカ・ヨコバイ類とその土着天敵の発生：イミダクロブリドまたはトリフルメゾピリムが含まれる育苗箱施用剤を使用した慣行防除水田および有機栽培水田における事例	
		低温蒸気加熱した茶葉および萎凋茶葉の遊離アミノ酸類および色の変動特性	
		大麦由来発酵濃縮液肥の高濃度土壌施用によるウンシュウミカンの早期成園化	
		Development of a DNA marker for cultivar identification of “Harushizuka”, a new satsuma mandarin cultivar created by heavy-ion irradiation	
		静岡県中遠地域における2001年から2017年にかけてのイネ縞葉枯病とヒメトビウンカ（カメムシ目：ウンカ科）の発生状況および水稲ほ場のヒメトビウンカ発生数が翌年のイネ縞葉枯病発病株率に及ぼす影響	
		同一施設内におけるバラのナミハダニ（ダニ目：ハダニ科）の採集地点および採集部位による薬剤感受性の違い	

h. 主な研究成果発表会の開催（令和7年度）

研究成果を迅速に普及推進するために、農林業者、関係団体等を対象に研究成果発表会を開催した。

（本所）

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
本所	4月8日	イチゴ試験研究報告会	新品種育成、育種技術開発、新作型開発、品質調査、病害虫防除	磐田市（本所）	JA、指導機関	40
	4月11日	令和誉富士交流会 2025	令和7年産「令和誉富士」の反収向上策 「令和誉富士」の収量と収量・品質の関係及び栽培法について	静岡市	生産者、JA、酒蔵、農林	70
	5月20日	第5回トマト・タバコカスミカメ利用情報交換会	静岡県でのタバコカスミカメ利用技術の普及状況について	JAあいち経済連営農センター	生産者、愛知県JA職員、愛知県職員	50
	5月23日	クラウンメロン支所春作メロン品評会	職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発について	静岡県温室農業協同組合クラウンメロン支所	市場関係者、生産者	100
	6月11日	AOI フォーラムビジネス交流会	職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発について	浜松市	民間企業、関連団体、生産者、一般	100
	6月25日	令和7年度第1回西部いちご勉強会	高温期の病害対策について	JAとびあ浜松東中央営農センター	生産者、JA職員、農林事務所	20
	7月8日	静岡県いちご生産者研究大会	現地試験品種 20-5-5 について（野菜科担当） イチゴ炭疽病の多発要因と対策の考え方について（保護科担当）	静岡市	生産者、JA、指導機関	292
	8月6日	発酵ジネンジョに関する勉強会	発酵ジネンジョに関する現状と利用について	静岡市	民間企業、生産者等、大学	20
	9月4日	JA遠州夢咲トマト立枯病報告会	トマト立枯病の現状と対策について	JA夢咲青果物流通センター	生産者、JA職員、農林事務所	10
	10月10日	令和7年度IPM技術指導者養成研修第2回研修会	施設園芸作物のIPMについて 施設園芸作物における新たなIPM要素技術について（虫害対策）	農林技術研究所	JA、各農林事務所の技術指導担当者	30
	10月16日	静岡地域食料学A	静岡県の食料生産	静岡市	大学生	50
	10月20日	令和7年度農業・工業原材料生産と光技術研究会	職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発状況発表と実演	浜松市	民間企業、関連団体、一般	100
	10月27日	温室メロンアドバイザー講座	職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発状況発表と実演	磐田市	流通関係者、生産者	60
	11月13日	2025年イチゴ炭疽病現地実証試験報告会	イチゴ炭疽病対策について	農林技術研究所	生産者、JA、経済連、農林事務所	15
	11月14日	いちご委員会講習会	静岡16号（20-5-5）について	掛川市	生産者、JA	30
	11月26日	JAふじ伊豆苺全体栽培講習会	静岡県育成系統 20-5-5（静岡16号）の現地拡大試験経過	web開催	生産者、JA、指導機関	40

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
本 所	11月28日	アグリビジネス創出フェア	特別パネルディスカッション・天敵利用×最前線とリアル	東京ビックサイト 西展示棟 西3ホール	農業関係者	200
	12月8日	MaOI プロジェクト成果発表会	乳酸発酵したジネンジョ食品についてのポスター発表	静岡市	民間企業、 関連団体、 一般	100
	12月11日	アルスプラウトセミナー	ガーベラ、バラ、トルコギキョウにおけるアルスプラウトを活用した研究の成果について	掛川市	生産者、指導機関、 施工業者	10
	12月11日	第37回静岡県自然薯品評会	自然薯を使った新たな乳酸発酵食品の開発について	島田市	生産者、食品加工メーカー等	50
	1月14日	J A 富士伊豆いちごサミット	静岡16号の基本特性と現時点での関係手続状況、今後予定	伊豆の国市	生産者、JA、指導機関	41
	1月14日	みんなで考える病害虫対策セミナー	タバコカスミカメの基礎生態と施設トマトにおける利用のポイントについて	飛騨総合庁舎(オンライン)	農業関係者	50
	1月16日	A 掛川市バラ部会品種検討会	バラの高温対策技術とLED試験について	掛川市	生産者、市場関係者	15
	1月19日	JA 遠中生産者組織協議会高温対策講習会	気象変動予測と農作物の高温対策	磐田市	生産者、JA	55
	1月22日	ガーベラ研究会	ガーベラの高温対策技術について	磐田市	生産者、指導機関	30
	1月23日	農業関係教諭研修会	温室メロンの栽培・品質評価の講義、職員提案型チャレンジ研究におけるメロン熟度計開発成果広報	磐田市	農業関係教諭	25
	1月25日	静岡県花卉連ガーベラ部会研究会	タバココナジラミの生態と防除 ほか	農林技術研究所	静岡県花卉連ガーベラ部会 部会外生産者、経済連	30
	1月26日	中遠いちご高温対策セミナー	いちご栽培における高温対策技術	磐田市(本所)	生産者、JA、指導機関	40
	2月12日	トルコギキョウ技術研修会	土壌病害対策及び高温対策について	磐田市	生産者、指導機関	70
	2月17日	職員提案型チャレンジ研究成果発表会	メロン熟度計開発の成果発表と実演	静岡市	民間企業、生産者等	60
	2月19日	静岡県野菜振興協会トマト部会講習会	トマト立枯病の対策	農林技術研究所	生産者、JA、農林事務所	50
	3月13日	令和7年度病害虫関係試験成績説明会	静岡県におけるトマト立枯病の発生生態と防除 ほか	農林技術研究所、オンライン	県植防会 企業、JA、県	50
	3月23日	西部農業経営士会 農林技術研究所視察研修会	1 バイオスティミュラントの現状、課題 2 天敵を活用した害虫防除技術	農林技術研究所	西部農業経営士会 会員	10

(茶業研究センター)

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
茶業研究センター	6月5日	JA 大井川品評会	品評会を通じた製茶技術の説明、情報交換	藤枝市堀之内	JA 技術員	20 人
	7月9日	社員研修会	スマート農業、被覆技術について	茶業研究センター	茶商	10 人
	7月16日	全国手揉み茶品評会	品評会を通じた製茶技術の説明、情報交換	静岡市葵区北番町	生産者、関係機関	50 人
	7月18日	社員研修	被覆技術について	茶業研究センター	JA 技術員	5 人
	8月8日	被覆技術講習会	玉露栽培における被覆技術	茶業研究センター	藤枝市、JA、生産者	10 人
	8月20日	令和7年度有機栽培・堆肥利用促進研修会	茶園改植における畜産堆肥の活用方法	富士農林事務所	生産者、JA、市町、その他関係団体	60 人
	9月30日	100 銘茶協議会研修会	食品加工設備を用いたエキスパウダーの試作製造	茶業研究センター	生産者	10 人
	11月5日	後継者育成研修会	品種、病害虫、土壌肥料、新商品開発にかかる研究成果	茶業研究センター	JA 技術員	50 人
	12月6日	日本有機農業学会大会	有機茶生産に関する技術、適正品種等	環境専門職大学	研究者、生産者、行政関係者等	139 人
	12月10日	JA 静岡市本山茶品評会	品評会を通じた製茶技術の説明、情報交換	静岡市葵区北番町	生産者、関係機関	20 人
	12月16日	お茶の高温対策研修会	お茶の高温対策、茶園用走行型除草装置、スマート農業技術	茶業研究センター	生産者	23 人
	12月17日	輸出向けてん茶生産拡大に向けた取組み研修会	被覆技術のタイミング、茶園クリーナーによる炭疽病の防除等について	茶業研究センター	生産者	33 人
	12月19日	てん茶・有機茶セミナー	被覆技術について	JA 遠州中央 天竜支店	生産者、JA、市等	28 人
	1月23日	茶業改善研修会	需要の変化に対応した品種選定及び未利用資源の機能性成分の特性とその利用について	茶業研究センター	肥料商組合員	19 人
	2月10日	被覆技術研修会	被覆技術について	JA 掛川市	生産者、JA	60 人
	2月15日	ChaOI フォーラムセミナー	ChaOI ファクトリーの機器の活用について	島田市プラザおおるり	ChaOI フォーラム会員等	100 人
	2月18日	JA 遠州夢咲茶業者集会	高温対策について	JA 遠州夢咲	生産者、JA	150 人
	2月27日	成果発表会	茶業研究センターの研究成果について	茶業研究センター	生産者、民間企業、関係機関等	150 人
	3月3日	JA 遠州中央茶業者集会	被覆技術について	JA 遠州中央	生産者、JA	150 人
	3月11日	JA 掛川市茶生産青年研修会	被覆技術について	JA 掛川市	生産者、JA	50 人

(果樹研究センター)

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
果樹研究センター	5月28日	落葉果樹振興協会総会講演会	栽培果樹の高温対策	静岡市	生産者、JA	18人
	6月2日	専門職大学講義	カンキツにおけるドローンを活用した病害虫防除について	果樹研究センター	学生	20人
	7月2日	JAふじ伊豆梨部会研修	発芽不良対策について	果樹研究センター	生産者、JA	20人
	7月10日	静岡県落葉果樹振興協会栽培講習会	キウイフルーツの花粉除菌技術について	果樹研究センター	生産者、JA、経済連	50人
	9月3日	JAみっかび栽培講習会	片面結実栽培の管理のポイントについて	浜松市	生産者、JA	15人
	9月10日	静岡県柑橘技術者協議会全員研修会	双幹樹形について	果樹研究センター	生産者、JA、経済連	50人
	9月24日	中部柑橘委員会柑橘生産者交流会	片面交互結実栽培法について	静岡市	生産者、JA、経済連	25人
	9月24日	JAみっかびファーマーズクラブ勉強会	温暖化対策について	浜松市	生産者、JA	12人
	10月22日	研究成果発表会	画像解析技術を活用した温州ミカンの着果管理 他	果樹研究センター	生産者、JA関係者	40人
	12月1日	JA大井川ナシ部会剪定講習会	ニホンナシ極早生系統について	焼津市	生産者、JA	40人
	1月19日	静岡県害虫研究会	静岡県におけるカンキツ病害虫ドローン防除の現状と問題点	静岡市	農薬メーカー、関係機関	27人
	1月27日	経営士協会青年士会果樹部会	果樹研究センターの研究成果	静岡市	生産者	27人
	1月30日	森町中山間地域農業振興協議会クリ剪定講習会	クリのカットバックについて	森町	生産者	15人
	2月6日	静岡県果実品評価会表彰式記念講演会	落葉果樹の研究内容について 他	静岡市	生産者、JA、関係機関	20人
	2月24日	柑橘担い手セミナー	カンキツ園における施肥について 他	果樹研究センター	生産者、JA、経済連	22人
	3月5日	果樹改善研修会	温州ミカンの片面結実法における収量及び品質と農家の収益性について	果樹研究センター	肥料販売者	30人
	3月13日	ドローン説明会	カンキツにおけるドローンを活用した病害虫防除について	静岡市	生産者、JA	20人
	3月9日	実践技術指導力強化研修	落葉果樹の剪定について	果樹研究センター	普及指導員	8人
	3月19日	育成品種試食会	県育成柑橘品種について	果樹研究センター	生産者、JA関係者	35人

(伊豆農業研究センター)

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
伊豆農業研究センター	4月8日	天城湯ヶ島山葵組合	わさび田の暑熱対策	伊豆市	生産者、JA	50人
	4月15日	静岡県山葵組合連合会通常総会講演	わさび田の暑熱対策	伊豆市	生産者、JA	100人
	5月9日	ワサビ採種研修会	種子収穫調整技術の研修	伊豆市	生産者	15人
	6月11日	ワサビ種子採取講習会	種子乾燥調整技術の研修	伊豆市	生産者、JA	15人
	6月13日	JAふじ伊豆ハウスミカン部会研修会	ハウスミカンの栽培管理について	東伊豆町	生産者、JA	10人
	7月17日	摘果講習会	柑橘の摘果について	東伊豆町	生産者、JA	17人
	8月25日	花卉連カーネーション部会研究会	カーネーション実証事業、場内試験結果報告	伊豆農業研究センター	生産者、JA	20人
	8月26日	JAふじ伊豆伊豆太陽地区柑橘委員会	夏の日焼け対策とカットバック処理技術の開発	東伊豆町	生産者、JACK	30人
	9月24日	JAふじ伊豆ハウスミカン部会研修会	ハウスミカンの栽培管理について	東伊豆町	生産者、JA	10人
	12月19日	カワヅザクラ栽培講習会	カワヅザクラ切り枝ほ場の管理と収穫について	河津町	生産者	15人
	1月8日 1月9日	河津花組合	カーネーションの栽培管理について	東伊豆町 河津町	生産者	17人
	1月23日	JAふじ伊豆東伊豆営農経済センター	柑橘の剪定方法について	東伊豆町	生産者、JA	40人
	1月30日	JAふじ伊豆あいら伊豆柑橘委員会	カットバック処理した樹の剪定について	熱海市	生産者、JA	15人
	2月13日	南伊豆山葵生産組合総会	ワサビF1品種「ふじみどり」の育成	東伊豆町	生産者	30人
	2月16日	下田市農業経営振興会	柑橘の剪定方法について	東伊豆町	生産者、JA	25人
	2月23日	公開デー特別講演	伊豆地域で有望な柑橘品種について 畑わさびについて	東伊豆町	生産者、一般	50人
	3月10日、13日	南伊豆町農業振興会研修会 下田市農業経営振興会	柑橘の剪定方法について	南伊豆町 下田市	生産者	6人

(森林・林業研究センター)

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
森林・林業研究センター	4月22日	森林保護担当者 打合せ会議	松くい虫、ナラ枯れ及び外来カミ キリ類の被害メカニズムと防除法	静岡市	県市町担当者	51人
	5月27日	三ヶ日農協青年 連盟鳥獣被害対 策勉強会	獣の捕獲技術	浜松市	J A三ヶ日生 産者	39人
	6月23日	しいたけ生産者大 会	シイタケ害虫対策のこれまでとこ れから	静岡市	県内シイタケ 生産者	50人
	7月24日	早生樹勉強会	早成樹(テグマツ)育成・植林・ 育苗等 植林の留意事項: 獣害及びマツ ノザイセンチュウ病等について	森林・林業 研究センタ ーほか	製材事業者、 林家、森林組 合、地方公共 団体等	53人
	10月3日	県森林・林業技術 研究発表会	モンゴル国セレンゲ県との林業 技術交流(県の林業技術に関す る講義、意見交換、R6年度に県 から輸出・植栽した苗木の管理 手法に関する視察ほか)	静岡市	県林業職員等	100人
	10月15日	出前講座(聖隷クリ ストファー小学校)	森林の公益的機能、ヒノキ球果 採取、CO ₂ 吸収量の測定	浜松市	小学生、教師	54人
	12月4日	令和7年度早生 樹(テグマツ等) に関する現地検 討会	テグマツの育成状況について	浜松市	行政、林業関 係者	53人
	12月14日	出前講座(西美園 下子供会)	森林の公益的機能	浜松市	小学生、保護 者	79人
	12月18日	松くい虫防除連 絡協議会	松くい虫の被害メカニズムと防除 法	静岡市	県市町担当者	36人
	1月15日	花粉症対策苗の コンテナ苗育苗実 習	花粉症対策苗(少花粉、無花 粉)の育苗方法	森林・林業 研究センタ ー	行政、林業関 係者	46人
	1月16日	磐田市農業委員 会 第2回合同研 修会	農業の鳥獣被害対策	磐田市	磐田市農業委 員会委員	44人
	2月16日	小山町山地強靱 化総合対策協議 会・勉強会	『町有林における早生樹につい て』	小山町	小山町民	80人
	2月17日	職員提案型チャ レンジ研究成果発 表会	高品質な「原木生シイタケ」を食 卓に届けたい! ~キノコバエ類 被害予防技術の現地実証~	静岡市	シイタケ生産 者、一般県民 等	35人
	3月9日	早成樹講演・勉強 会	早成樹(テグマツ)物性等に関 する勉強会	静岡大学	製材事業者、 林家、森林組 合、地方公共 団体等	50人
	3月17日	静岡発 新しい 林業経営への挑 戦 テグマツ が変える 次世 代林業創出セミ ナー	スギ・ヒノキに次ぐ選択肢 テ グマツの可能性を検証する	静岡市	林業関係者	50人
	3月13日	天竜森林管理署 無花粉スギに関 する勉強会	無花粉スギの開発、挿し木技術	森林・林業 研究センタ ー	行政	31人

i. 研究成果の学会発表の実施（令和7年度）

学会等学術分野において研究成果を発表した。

機 関	学会発表等回数
本 所	26回
茶業研究センター	14回
果樹研究センター	11回
伊豆農業研究センター	3回
森林・林業研究センター	12回
計	66回

j. 研究成果を踏まえ講演会等の実施、報道機関を通じた研究成果の発表、農業者、関連企業等の技術支援（相談対応）の対応（令和7年度）

機 関	講演会・研修会の開催回数 及び参加者数 ^(注)		新聞等掲載件数	相談者(回)
本 所	65回	3,285人	56件	94回
茶業研究センター	53回	3,221人	33件	191回
果樹研究センター	38回	1,061人	3件	58回
伊豆農業研究センター	28回	591人	20件	61回
森林・林業研究センター	38回	1,228人	13件	91回
計	222回	9,386人	125件	495回

注) 成果発表会での動画配信閲覧者数も含む

k. 公開デー等の開催（令和7年度）

機 関	名 称	開催日	開催場所	参加人数
茶業研究センター	研究成果発表会	2月27日	茶業研究センター	150人
果樹研究センター	研究成果発表会	10月22日	果樹研究センター	40人
伊豆農業研究センター	伊豆農業研究センター公開デー	2月1日	伊豆農業研究センター	100人
森林・林業研究センター	森とともだちになろう	8月6、7日	森林・林業研究センター	96人

l. 本所・センターの視察者・参観者数（令和7年度）

機 関	参観者数
本 所	345人
茶業研究センター	691人
果樹研究センター	369人
伊豆農業研究センター	155人
森林・林業研究センター	144人
計	1,704人

m. 農林業資料館の管理・運営（令和7年度）

種 類	所 属	資料保管点数	参観者数
農業資料館	本 所	707点	168人
森の科学館	森林・林業研究センター	500点	218人 (R7.4~R8.3)
計		1,207点	386人

[評価・改善]

- ・研究成果は、成果写真集を活用し、マスコミや関係団体情報誌等様々な機会を捉えて積極的にPRするとともに、県庁 YouTube チャンネルによる動画配信を行うなど、農林事務所等と連携して早期普及に努めた。
- ・現場への技術移転は、農協の営農指導活動や農林事務所の普及指導員の調査研究活動等を活用し、新たな技術の普及を図った。
- ・研究成果について、学会での論文発表や口頭発表を積極的に行った。
- ・共同研究等による外部資金の獲得に努めた。
- ・公開デー等の開催により、農林技術研究所の役割を広く一般県民に広報できた。
- ・県民対象のセミナーや教室の開催や参観人を受入れ、一般県民の農業理解の促進に努める。
- ・広報は所全体で年間を通して、計画的に行った。研究員自らも積極的に広報する姿勢を持つなど、様々な機会を通して、情報を発信し、技術の普及に努める。

(キ) 依頼試験

(令和7年度)

試 験 項 目	件 数	金 額
木材の材質試験	14件	1,893,030円

[評価・改善]

- ・企業等からの依頼に基づき、有料で、木材の材質試験を適正に実施し、林業・木材産業の向上に寄与した。

(ク) ChaOIファクトリー

(令和7年度)

設備の名称	使用件数	延べ使用者数
発酵茶製造設備、半発酵茶製造設備	40件	296人
食品加工	24件	126人

[評価・改善]

- ・発酵茶の生産に係る設備については、利用回数において前年をやや上回った。
- ・食品加工機械については、噴霧乾燥装置及び破碎型造粒機の利用が拡大しており、手数料収入の増加に寄与している。
- ・現在、新成長戦略研究で取り組んでいる、食品加工機器の新たな利用法の提案や、利用者等からの利用方法の提案を具体化し、機器利用の幅を広げ利活用を推進する。

(ケ) 知的所有権

a. 登録品種と許諾実施状況

国内（登録）

区分	年月日	番号	作物名	品種名	許諾先
登録	H12. 6. 27	8131	茶	香駿	JA 静岡経済連、川根本町
登録	H15. 3. 17	11103	茶	つゆひかり	JA 静岡経済連、川根本町、島田品種茶普及会、掛川市農協、（個人1名）
登録	H18. 7. 13	14350	マーガレット	クイーンマイル	
登録	H19. 3. 2	14973	マーガレット	ホワイトジュエル	
登録	H19. 3. 2	14990	マーガレット	ピーチクイーン	
登録	H19. 3. 2	14992	マーガレット	カナリアクイーン	
登録	H19. 10. 22	15654	ミズカケナ	GR 湧水菜	御殿場小山水かけ菜生産組合
登録	H20. 3. 13	16566	マーガレット	サワーリップル	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	H20. 10. 16	17047	マーガレット	サザンエレガンスホワイト	静岡県花卉園芸組合連合会
登録	H21. 2. 24	17419	梨	静喜水	JA 静岡経済連
登録	H21. 3. 6	17696	マーガレット	キューティーマイル	静岡県東部花き流通センター農業協同組合（R7. 3. 31 まで）
登録	H21. 3. 6	17784	キヌサヤエンドウ	伊豆みどり	富士伊豆農業協同組合
登録	H21. 3. 19	18111	稲	誉富士	静岡県米麦協会
登録	H22. 9. 24	19934	スプレーギク	古都の夢	静岡県花卉園芸組合連合会
登録	H24. 1. 20	21315	温州みかん	静丸早生	JA 静岡経済連
登録	H24. 2. 21	21400	マーガレット	スーパーレモネード	静岡県花卉園芸組合連合会
登録	H24. 2. 21	21403	マーガレット	風恋香	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	H24. 11. 14	22069	茶	ゆめするが	JA 静岡経済連、掛川市農協
登録	H26. 3. 6	23119	柿(台木)	静カ台1号	
登録	H26. 3. 6	23120	柿(台木)	静カ台2号	
登録	H27. 3. 11	23945	茶	しずかおり	JA 静岡経済連
登録	H28. 1. 18	24631	マーガレット	おぼろ月	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	H28. 1. 18	24633	マーガレット	ラブリーフレンド	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	H28. 1. 18	24634	マーガレット	ファイアークラッカー	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	H28. 11. 17	25502	らっきょう	NR 静育1号	
登録	H29. 2. 6	29483	イチゴ	きらび香	三好アグリテック(株)、静岡県いちご協議会、本多園芸、静岡県在住生産者44名
登録	H28. 8. 9	25353	カンキツ	静姫	JA 静岡経済連
登録	H29. 9. 28	26271	わさび	伊づま	静岡県山葵組合連合会
登録	H31. 1. 23	27143	マーガレット	ブリアンルージュ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合

区分	年月日	番号	作物名	品種名	許諾先
登録	H30. 6. 19	26867	稲	葵美人	
登録	R2. 3. 9	27824	マーガレット	シェリエメール	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	R6. 3. 6	30107	温州みかん	春しずか	JA 静岡経済連
登録	R6. 4. 16	36563	茶	しずゆたか	JA 静岡経済連、島田品種茶普及会
登録	R6. 4. 16	36564	茶	ゆめすみか	JA 静岡経済連、島田品種茶普及会
登録	R7. 4. 7	35793	マーガレット	レディフレア	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	R7. 4. 7	35794	マーガレット	スイングレモネード	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	R7. 4. 7	35795	マーガレット	スノーフレア	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
登録	R7. 4. 7	35979	ビジューマム	ビジューマム ロー ズクォーツ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
登録	R8. 3. 2	35965	水稻	令和誉富士	静岡県米麦協会

国内（出願公表）

区分	公表年月日	出願番号	作物名	品種名	許諾先
出願公表	R4. 5. 13	35980	マーガレット	ビジューマムガーネット	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R4. 9. 29	36324	わさび	ふじみどり	静岡県山葵組合連合会
出願公表	R5. 9. 25	36882	マーガレット	ピーチフレア	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R5. 9. 25	36883	マーガレット	シェリーフレア	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R5. 9. 25	36884	マーガレット	ラズベリーフレア	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R5. 9. 25	36885	マーガレット	ビジューマムピンクパール	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R5. 9. 25	36886	マーガレット	ビジューマム ブラッドルビー	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R5. 10. 5	36887	マーガレット	ニューサマーステラ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R6. 10. 24	37516	マーガレット	ビジューマム ミルキートパズ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R6. 10. 24	37517	マーガレット	ビジューマム ピーチトパズ	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会
出願公表	R6. 10. 24	37518	マーガレット	ビジューマム カーネリアン	静岡県東部花き流通センター農業協同組合、静岡県東部鉢物研究会

海外への品種登録

作物名	品種名	対象国	出願状況	備考
イチゴ	「きらび香」	中華人民共和国	R5. 12. 29 登録	「植物品種等海外流出防止緊急対策事業」(農林水産省) を活用
		大韓民国	R2. 10. 15 登録	
		台湾	出願公表	
わさび	伊づま	大韓民国	R3. 7. 13 登録	
		E U	R4. 11. 22 登録	
		イギリス	R6. 6. 10 登録	
温州ミカン	春しずか	中華人民共和国	出願済	
		大韓民国	出願中	

令和 7 年度許諾契約件数 : 30 件 (3 月末時点) 令和 6 年度許諾実施料 : 1, 809, 220 円 (3 月末時点)

b. 職務発明と許諾実施状況

区分	名 称	年 度	共同出願人	許 諾 先
特 許	植物の生育段階判定方法及びシステム	II24 登録		山本電機(株) (株)IT 工房 Z (有)HYDRP
特 許	果実結露防止センサ	H28 登録	中部電力(株)	
特 許	植物体の害虫抑制方法	R 1 登録	大阪府立環境農林 水産総合研究所	(株)ユニコジャ パンマグネッ ト、ホタルクス、 ヨコオ、アルフ アックス(株)
特 許	動物捕獲用罟	R 1 登録	南渡部製作所	南渡部製作所
特 許	玉ねぎ類処理機	R 2 登録	(株)ニシザワ	
特 許	植物の自動給液システム及び養液栽培 方法	R 2 登録		山本電機(株)
特 許	植物群落透過光センサユニット及び植 物の生育状況判定方法	R 4 登録		山本電機(株)
特 許	果実の剥皮方法	R 4 登録		
特 許	過酢酸による果実の保存性及び貯蔵性 向上方法	R 5 登録	保土谷化学工業(株)	
特 許	適食予備加工された青切り柑橘果実並 びその製造方法並びに青切り柑橘果実を 用いた食材	R 5 登録		
特 許	紅茶の製造法及び紅茶の製造法におけ る発酵適期判定装置	R 6 登録	(株)寺田製作所	(株)寺田製作所
特 許	茶樹用防除装置と茶樹用防除方法	R 7 登録	(株)寺田製作所	
特 許	リサンプリング装置、情報処理システ ム、リサンプリング方法、及びリサンプ リングプログラム	R 7 登録	国立大学法人 静岡大学	
準特許	植物栽培における遮光制御システム及 び遮光制御方法	R 2 出願		
準特許	農作物栽培に関する情報取得方法及び プログラム	R 3 出願	農研機構、愛知 県	
準特許	土壌散布用組成物および作物の生産方法	R 4 出願	第一工業製薬 (株)、三ヶ日町農 業協同組合	
準特許	茶園用走行型管理装置	R 4 出願	(株)寺田製作所	
準特許	非接触の振動による植物体からの追い 出し、光による誘引、ならびに吸引によ る捕虫効果を用いたコナジラミ類の防 除及びモニタリング方法	R 4 出願	農研機構、ピク シーダストテ クノロジーズ (株)	
準特許	給液条件推定方法及びプログラム、並び に栽培環境制御方法	R 6 出願	農研機構	
準特許	養液栽培システム	R 6 出願	山本電機(株)	

令和 7 年度新規許諾契約件数：3 件

令和 7 年度許諾実施料：24,308 円

(ア) 職員の派遣等研修状況

所内研修は Web 開催で各センターへ配信する形式で実施した。

— 39 —

専門分野別 勉強会 (土壌肥料分野)	栄養・機能性科 □□□□、□□□□、 □□□□、□□□□ 茶業研究センター □□□□、□□□□ 果樹研究センター □□□□	本所	R7. 12. 10	土壌肥料に関するこれまでの主要成果や研究課題について学ぶとともに研究経験者からアドバイスを受ける。
専門分野別 勉強会 (虫害分野)	植物保護・環境保全科 □□□□、□□□□、 □□□□ 茶業研究センター □□□□、□□□□ 果樹研究センター □□□□、□□□□ 伊豆農業研究センター □□□□ 森林・林業研究センター □□□□、□□□□ 病虫害防除所 □□□□、 □□□□	本所 (Web 併用)	R7. 6. 4 R7. 7. 30 R7. 10. 6 R8. 1. 29	虫害に関するこれまでの主要成果や研究課題について学ぶとともに研究経験者からアドバイスを受ける。
農林水産関係 研究リーダー 研修 (農水省)	茶業研究センター □□□□ 果樹研究センター □□□□	農林水産省	R7. 6. 12～ R7. 6. 13	研究リーダーの任にある研究者に対し、必要な知見の習得及び能力の向上を目的とする。
農林水産関係 若手研究者研 修 (農水省)	伊豆農業研究センター □□□□	農林水産省	R7. 10. 14～ R7. 10. 15	農林水産関係試験研究機関の若手研究者として最低限身につける必要のある知見の習得、能力の開発を目的とした研修
農林水産関係 中堅研究者研 修 (農水省)	果樹研究センター □□□□	農林水産省	R8. 1. 8～ R8. 1. 9	中堅研究者のキャリアパスとして必要となる知見の習得や企画立案能力の開発を目的とした研修
日本植物防疫 協会植物防疫 技術研修会(基 礎)	植物保護・環境保全科 □□□□	日本植物防疫協会茨城 研究所	R7. 6. 3 ～5	農薬実用化試験に関する制度、試験設計から実施方法、成績取り纏めなどの考え方の講義と実技研修
スマート農業 技術の経営評 価手法に関す る研究会(農研 機構)	農業ロボット・経営戦略科 □□□□、□□□□	Web	R7. 11. 6	都道府県の農業関係技術者および研究者を対象に、スマート農業技術の経営評価手法の習得を目的とした研修
農業経営人材 育成研修プロ グラム「経営支 援コース」(農 水省)	農業ロボット・経営戦略科 □□□□	Web	R7. 5. 7～ R8. 2. 27	農業者の経営改善等を支援する人材の育成を目的とした研修(事業計画策定、労務管理、農地制度等全15科目)
東海地域農業 関係試験研究 機関人材育成 研修	果樹研究センター □□□□	岐阜県中山 間農業研究 所中津川支 所	R7. 7. 11	クリの育成品種の開発手法と栽培技術の確立

食品衛生責任者養成講習	加工技術科 □□□□	Web	R8.2.24 ~ R8.3.26	食品衛生責任者を取得するための研修
肥料分析実務者研修	栄養・機能性科 □□□□	FAMIC	R7.7.22 ~ R7.7.24	肥料の品質保全、分析技術の向上を目的として実施している、共通試料分析の結果報告及び肥料サンプリング技術の研修
農地土壌炭素貯留等基礎調査事業「農地管理実態調査」講習会 (農研機構)	栄養・機能性科 □□□□、□□□□	大分県農林水産研究指導センター、大分県庁他	R7.10.8、 R7.10.10	公設等の農業試験研究機関に在籍し、本調査事業を実施している土壌肥料研究者等の土壌調査・分類に関する資質向上を目指した研修
令和7年度関東ブロック土壌保全対策技術研究会 (関東農政局)	栄養・機能性科 □□□□、□□□□、 □□□□	静岡県農林技術研究所圃場	R7.11.20 ~ R7.11.21	関東地域の農業試験研究機関研究員対象の「土壌分析に基づく土づくりと施肥による持続性の高い農法への転換」に資する研究会
森林立地・施業技術 (林野庁)	森林・林業研究センター 森林育成科 □□□□	森林総合研修所(東京都八王子市)、山梨県有林(山梨県都留市)	R7.9.8 ~ 9.12	森林の多面的機能の発揮を重視し、目標林型に応じた森林の管理経営を行うため、森林土壌や多様な森林施業等に関する知識及び技術を習得する研修
里山広葉樹利活用推進 (林野庁)	森林・林業研究センター 森林育成科 □□□□	Web	R7.9.17 ~ 9.19	里山広葉樹の再生・利活用を推進するため、現状・課題や受給動向、利活用等の知識を習得する研修

(イ) 研修生の受入状況

農林業の技術交流の推進等を図るために、研修生を受け入れた。

所属・氏名	受入所属	期 間	研 修 内 容
静岡県立大学食品栄養科学部 環境生命科学科	農林技術研究所 本所	R7.8.18 ~ 8.22	インターンシップ
静岡県立大学食品栄養科学部 環境生命科学科	農林技術研究所 本所	R7.8.18 ~ 8.22	インターンシップ
静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部 生産環境経営学科	農林技術研究所 本所	R7.8.18 ~ 8.22	インターンシップ
(東海地域農業関係試験研究機関人材育成研修) 三重県農業研究所 基盤技術研究室 農産物安全 安心研究課	農林技術研究所 植物保護・環境保全科	R7.12.5	天敵タバコカスミカメの飼育および試験方法

(東海地域農業関係試験研究 機関人材育成研修) 三重県農業研究所 生産技術研究室 野菜園芸研 究課	農林技術研究所 次世代栽培システム科	R8. 1. 8 ~ 1. 9	施設園芸における植物生体 情報の計測技術
(東海地域農業関係試験研究 機関人材育成研修) 三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 茶業研究 課	茶業研究センター	R7. 10. 1	病害防除試験に必要な手 法、試験方法 病原菌の検定、培養、圃場 接種の方法等
韓国 OSULLOC FARM/ OSULLOC R&D CENTER	茶業研究センター	R7. 4. 1~ 9. 26	茶の栽培、育種、土壌肥料、 病虫害防除、加工等の知識 全般の習得

[評価・改善]

- ・職員の資質向上を図るため、農林水産省等の研修に積極的に参加した。また、農林業の技術交流の推進等を図るため、韓国からの研修生やインターンシップの大学生、他県の研究機関の職員の研修を受け入れた。

ウ 研究以外の事業の実績

機 関	事業名	事業概要	7 年度事業実績	担当部署
本 所	水稻・小麦の 原々種、原種育 成配布、採種事 業	水稻・小麦奨励品種の 遺伝的純度と優良特性 を維持するため、原原 種、原種を生産し、県内 の採種組合(水稻 4 組 合、麦 1 組合)に種子を 供給する。 採種圃の圃場審査を行 う。	・水稻 5 奨励品種の原種 3,618kg を生産。 ・小麦 1 奨励品種の原種 862kg を生産。 ・R7 年産用種子として、県内 3 水稻採種組合へ 8 奨励品種および 1 品種の原種計 1,848kg を配布。 ・R8 年産用種子として、県内 1 麦採種組合へ 1 奨励品種の原種を 434kg を配布。 ・採種ほのほ場審査の実施 8 回	水田農業 生産技術 科
	イチゴの無病苗 増殖・配布事業	本県イチゴ生産の健全な 発展を図るため、イチゴ無 病苗(原々苗)を計画的に増 殖配布し、生産農家の経営 安定を図る。	・本県生産者団体(経済連)へ原々苗 150 株を供給(「紅ほっぺ」75 株、「きらび香」75 株)	野菜生産 技術科
	病虫害・生理障 害等の診断及 び防除対策指 導業務	農家圃場で発生した病 害虫の診断と防除対策指 導を行う。	・植物体診断・防除指導件数 59 件 ・栄養診断 2 件	植物保護 環境保全 科 栄養・機能 性科

茶 研 セ	環境負荷低減 農業推進事業	茶園施肥による環境負荷の軽減を図るため、関係団体、関係機関で構成する県茶園施肥適正化推進会議を組織し、施肥低減に向けた取り組みを実施する。	・丹野池及び周辺地区の水質調査 1名×12回 ・環境に与える負荷の少ない肥料の効果実証 1カ所	茶環境適 応技術科
	病虫害発生予 察事業	病虫害防除所に協力し、基準ほ場における病虫害発生状況を調査する。	・病虫害発生状況調査 3名×12回 ・発生予察会議での助言 1名×8回	茶環境適 応技術科
果 樹 研 セ	病虫害発生予 察事業	病虫害防除所に協力し、基準ほ場における病虫害発生状況を調査する。	・病虫害発生状況調査 2名×9回	果樹環境 適応技術 科
	病虫害・生理障 害等の診断及 び対策指導業 務	農家圃場で発生した病虫害及び生理障害の診断と対策指導を行う。	・植物体診断・対策指導件数 50件 ・電話相談による対策指導 75件	果樹環境 適応技術 科 果樹生産 技術科 果樹加工 技術科
	柑橘および落 葉果樹の生態 情報発信	気象と樹種別の生育状況を調査し、農林事務所や各JA等の技術者に情報提供する。	・生態情報の発信 9回	果樹生産 技術科 果樹加工 技術科
伊 豆 研 セ	カワヅザクラ の開花予測情 報発信	カワヅザクラの花芽発育状況を調査し、開発した開花予測システムを活用し、算出した開花予測情報を定期的に観光協会および市町に情報提供する。	・開花予測情報の発信 6回	生育・加 工技術科
森 林 研 セ	抵抗性クロマツ 種苗供給事業	静岡県山林種苗協同組合連合会に対し、抵抗性クロマツ苗の生産に必要なマツノザイセンチュウの供与を行う。	・培養用のマツノザイセンチュウ島原体群の供与	森林育成科
	森の力再生事 業効果調査	森の力再生事業施行地における植生変化等を毎年モニタリングしその森林動態の結果を森の力再生事業評価委員会に報告する。	・森の力再生事業地モニタリング調査 10箇所	森林育成科

松くい虫発生 予察調査	森林病虫害防除法第7 条の2第1項の規定に基 づく防除実施基準（平成 15年9月26日付け農林 水産省通達）に基づき、薬 剤散布の適期を確かめる ためマツノマダラカミキ リの発生予察調査を行 う。	・マツノマダラカミキリ発生予測調査 事業課に情報提供	森林育成科
花粉飛散量調 査	スギ雄花の開花前に、 目視による雄花着生調査 を行って、花粉飛散量を 予測する。	・スギ雄花着生調査（花粉飛散量予測） 30箇所	森林育成科 企画指導ス タッフ
しずおか優良 木材認証審査 指導	しずおか優良木材に関 わる工場認証審査、製品 品質管理等に関わる技術 指導等を行う。	・しずおか優良木材認証審査会 3回	森林資源利 用科

[評価・改善]

- ・優良苗や種子の配布をはじめ、病虫害に関する情報提供や各種技術指導等を実施することで、県内農業生産現場を直接的に支援した。

③肥料検査事業

令和7年度に県に登録・届出のあった肥料について検査等を行っている。また、肥料の品質を保全するため、肥料の品質の確保等に関する法律に基づき、肥料工場の立入検査、及び採取したサンプルの分析検査を実施している。なお、県登録・届出の普通肥料及び特殊肥料の検査は県で、国登録の普通肥料の検査は独立行政法人農林水産消費安全技術センターで実施している。

ア 登録・届出のあった肥料の検査結果（3月4日時点）

分 類	検査点数	取下げ点数	不合格点数
普通肥料	6	0	0
特殊肥料	9	0	0
計	15	0	0

イ 肥料工場の立入検査実績

（ア）普通肥料

a 検査か所数 3か所 検査点数 7点

b 分析項目：窒素全量、アンモニウム性窒素、硝酸性窒素、りん酸全量、可溶性りん酸、く溶性りん酸、加里全量、く溶性加里、水溶性加里、アルカリ分、く溶性苦土、く溶性マンガン、く溶性ほう素、ひ素、カドミウム、水銀、ニッケル、クロム、鉛の19項目。

c 検査結果

肥料の種類	検査点数	不合格点数	不合格の理由
指定配合肥料	5	0	
魚かす粉末	1	0	
菌体りん酸肥料	1	0	
計	7	0	—

（イ）特殊肥料

a 検査か所数 4か所 検査点数 4点

b 分析項目 窒素全量、りん酸全量、加里全量、炭素窒素比、水分の5項目

c 検査結果

特殊肥料の指定名	検査点数	不合格点数
堆 肥	4	0
計	4	0

〔評価・改善〕

- 肥料原料の国際相場と国内の肥料価格が、国際情勢により高騰している。本来は使用できない原料が使われる懸念もあるので、製造工場や流通場面での監視に努める。また、未利用資源を原料とした特殊肥料の届出が増えているので、不良な肥料が流通しないよう検査を徹底し、指導を強化している。

④病虫害防除所

植物防疫法に基づき、病虫害の発生予察情報の作成・提供、新しい予察法と防除法の研究、「農業安全使用指針・農作物病虫害防除基準」の編集・公開・遵守指導及び病虫害診断等の植物防疫対策業務を行った。

ア 病虫害発生予察業務

(ア) 指定病虫害発生予察事業

植物防疫法第23条に基づき、農林水産大臣指定病虫害の発生状況を定期的に調査し、発生の予察を行うとともに適時・的確な情報を提供した。

○調査対象作物及び病虫害

調査対象作物（20作物）、病虫害（153種類）

対象作物	指 定 病 害 虫
水稲	イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ミナミアオカメムシ、シラホシカメムシ、イネカメムシ）、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ、稲こうじ病、いもち病、ごま葉枯病、蒟蒻枯病、白葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病
麦	赤かび病、うどんこ病、さび病類（赤さび病）
かんしょ	ナカジロシタバ、ハスモンヨトウ（作物共通）、シロイチモジヨトウ（作物共通）
ばれいしょ	アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、疫病、ハスモンヨトウ（作物共通）
さといも	ハスモンヨトウ（作物共通）
かんきつ	アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ミカンクロアブラムシ）、ハダニ類（ミカンハダニ）、かいよう病、黒点病、そうか病、果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
なし	アブラムシ類（ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ナシアブラムシ）、カイガラムシ類（クワコナカイガラムシ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ミカンハダニ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、赤星病、黒星病、黒斑病、果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
かき	アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、炭疽病、果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
キウイフルーツ	かいよう病
茶	アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（クワシロカイガラムシ）、チャトゲコナジラミ、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、ハダニ類（カンザワハダニ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、炭疽病
トマト	アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、うどんこ病、疫病、黄化葉巻病、すすかび病、灰色かび病、葉かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）、オオタバコガ（作物共通）
だいこん	アブラムシ類（ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ（作物共通）、コナガ（作物共通）
キャベツ	アブラムシ類（ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、モンシロチョウ、菌核病、黒腐病、ハスモンヨトウ（作物共通）、シロイチモジヨトウ（作物共通）、コナガ（作物共通）、ヨトウガ（作物共通）、オオタバコガ（作物共通）
たまねぎ	アザミウマ類（ネギアザミウマ）、白色疫病、べと病、シロイチモジヨトウ（作物共通）
ねぎ	アザミウマ類（ネギアザミウマ）、アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ネギハモグリバエ、黒斑病、さび病、べと病、ハスモンヨトウ（作物共通）、シロイチモジヨトウ（作物共通）、ヨトウガ（作物共通）
レタス	アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、菌核病、灰色かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）
いちご	アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）
きゅうり	ハスモンヨトウ（作物共通）
ほうれんそう	ハスモンヨトウ（作物共通）

きく	アザミウマ類（コスモスアザミウマ、ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、クロゲハナアザミウマ）、アブラムシ類（キクヒメヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、白さび病、オオタバコガ（作物共通）
----	---

(イ) 指定外病虫害発生予察事業

植物防疫法第31条に基づき、指定病虫害と平行して本県の主要な20作物の107病虫害を対象に発生予察を行った。

○（ア）、（イ）の業務方法

情報の収集

- ・ 所員による巡回ほ場の調査（調査地点 320か所、病虫害多発時等追加地点 290か所）
- ・ 植物防疫法第33条に基づく病虫害防除員（75人）による産地ほ場の調査
- ・ 地区予察調査員等による予察灯等の調査（20か所）
- ・ 県予察ほ場の調査（農林技術研究所本所、茶業研究センター、果樹研究センター）

情報の分析・とりまとめ

- ・ 発生予察会議による予察情報（月報、警報、注意報、特殊報、技術情報）の作成
会議構成メンバー：病虫害防除所、農林技術研究所、茶業研究センター、果樹研究センター、食と農の振興課、各農林事務所（必要に応じ）

情報の提供

- ・ Eメール
病虫害防除員、農薬卸商、関係機関、農業団体
- ・ F A X
報道機関、農業団体等
- ・ 県庁S D Oの経済産業部の掲示板
- ・ J P P - N E Tの掲示板
全国の病虫害防除所やネット加入者閲覧
- ・ インターネット
病虫害防除所ホームページ 令和7年度アクセス数：10,556件（3月末時点）

○予察情報の提供状況

（月 報）	12回	毎月下旬に翌月の予報を発表
（注意報）	令和7年7月31日	第1号 斑点米カメムシ類（水稻）
	令和7年7月31日	第2号 チャノキイロアザミウマ（かんきつ）
（特殊報）	令和7年8月5日	第1号 ワタミヒゲナガゾウムシ（温州みかん：施設）

(ウ) 地域実験予察調査

各地域で問題となっている病虫害の発生原因を解析し、発生予察法や防除法を確立するための調査を行った。

○地域実験予察調査

作物	課 題 名
作物	静岡県内で発生しているイネカメムシの薬剤感受性
果樹	2025年における果樹カメムシ類の発生状況－1

果樹	2025年における果樹カメムシ類の発生状況－2
果樹	スマート害虫モニタリングシステムにおける果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ及びクサギカメムシ）に対する識別精度の検証
果樹	スマート害虫モニタリングシステムにおける果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、およびツヤアオカメムシ）に対する発生消長の検証
野菜	県内で収集したイチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定
野菜	静岡県浜松市のコマツナで発生しているタバココナジラミ幼虫の薬剤感受性

(エ) 薬剤耐性菌・抵抗性害虫検定調査

- ・ 水稻：県西部地域のイネカメムシ成虫における各種殺虫剤の薬剤感受性を調査した。一部個体群でエチプロールの薬剤感受性低下が疑われた。
- ・ いちご：ピラクロストロビンとボスカリドは県内全域のイチゴ炭疽病菌に対して効果が低かった。ピリベンカルブに対する感受性は菌株間でばらつきが見られた。
- ・ こまつな：タバココナジラミ幼虫に対してディアナSC、アニキ乳剤、アフーム乳剤およびグレーシア乳剤は防除効果が高かった。

(オ) 特殊病害虫調査（国が行う植物検疫への協力）

植物検疫対象病害虫の侵入警戒調査に協力し、下記の病害虫を調査した（表参照）。国からの要請でセグロウリミバエ（No. 3）の調査を追加した。前年度に緊急防除が解除されたサツマイモのアリモドキゾウムシについて、過去の発生地点を中心に50地点調査した結果、侵入・発生は確認されなかった。トマトキバガは前年度に引き続き発生が確認された。

	分類	病害虫名	調査方法（複数あるものについてはいずれかの方法で実施）	目視調査の対象植物等	調査点数	発生確認地点数
1	昆虫類	ミカンコミバエ種群	誘引物質によるトラップ調査（必要に応じて寄主果実調査）	カンキツ属	7	0
2	昆虫類	ウリミバエ（ミカンコミバエ種群と同一トラップ）	誘引物質によるトラップ調査（必要に応じて寄主果実調査）	ウリ科、トマト	7	0
3	昆虫類	セグロウリミバエ	誘引物質によるトラップ調査（必要に応じて寄主果実調査）	ウリ科、トマト	7	0
4	昆虫類	クインスランドミバエ（ミカンコミバエ種群と同一トラップ）	誘引物質によるトラップ調査	カンキツ属、トマト	7	0
5	昆虫類	チチュウカイミバエ	誘引物質によるトラップ調査	トマト	6	0
6	昆虫類	アリモドキゾウムシ	フェロモントラップ調査	サツマイモ	50	0
7	昆虫類	トマトキバガ	フェロモントラップ調査	トマト、馬鈴しょ	3	3
8	線虫類	<i>Meloidogyne enterolobii</i>	“目視調査（異常があれば抜き取り調査又は周囲の掘り起こしによる根系の調査）”	トマト	3	0
9	ウイルス	<i>Columnea latent viroid</i> (CLVd)	目視調査	トマト	3	0
10	ウイルス	<i>Pepper chat fruit viroid</i> (PCFVd)	目視調査	トマト	3	0
11	ウイルス	トマト退緑萎縮ウイルス (TCDVd)	目視調査	トマト	3	0
12	ウイルス	<i>Tomato apical stunt viroid</i> (TASVd)	目視調査	トマト	3	0
13	ウイルス	<i>Pepino mosaic virus</i> (PepMV)	目視調査	トマト	3	0
14	ウイルス	<i>Tomato brown rugose fruit virus</i> (ToBRFV)	目視調査	トマト	3	0
15	ウイルス	<i>Tomato mottle mosaic virus</i> (ToMMV)	目視調査	トマト	2	0

16	ウイルス	<i>Tomato leaf curl New Delhi virus</i> (ToLCNDV)	目視調査	トマト	3	0
17	線虫類	バナナネモグリセンチュウ	"目視調査 (異常があれば抜き取り調査 又は周囲の掘り起こしによる 根系の調査) ※生育期間中の抜き取り等が 難しい場合には栽培終了時でも可。"	トマト	3	0
18	線虫類	コロンビアネコブセンチュウ	"目視調査 (異常があれば抜き取り調査 又は周囲の掘り起こしによる 根系の調査) ※生育期間中の抜き取り等が 難しい場合には栽培終了時でも可。"	トマト、馬鈴しょ	2	0
19	ウイロイド	ジャガイモヤセイもウイロイド? (PSTVd)	目視調査	トマト、馬鈴しょ	2	0
20	昆虫類	コロラドハムシ	目視調査	馬鈴しょ	3	0
21	線虫類	ジャガイモシストセンチュウ	"目視調査 (異常があれば抜き取り調査 又は土壌調査)"	馬鈴しょ	3	0
22	線虫類	ジャガイモシロシストセンチュウ	"目視調査 (異常があれば抜き取り調査 又は土壌調査)"	馬鈴しょ	3	0
23	菌類	ジャガイモがんしゅ病菌	"目視調査 (生産物の調査等)"	馬鈴しょ	3	0
24	菌類	<i>Thecaphora solani</i>	"目視調査 (生産物の調査等)"	馬鈴しょ	3	0
25	線虫類	カンキツネモグリセンチュウ	"目視調査 (異常があれば抜き取り調査 又は周囲の掘り起こしによる 根系の調査) ※生育期間中の抜き取り等が 難しい場合には栽培終了時でも可。"	カンキツ属、トマト	6	0
26	細菌	カンキツグリーニング病菌 (ミカンキジラミ含む)	"①目視調査 (CG・ミカンキジラミ) ②ピーティング調査 (ミカンキジラミのみ)"	カンキツ属	6	0
27	細菌	<i>Spiroplasma citri</i>	目視調査	カンキツ属	11	0
28	細菌	<i>Xylella fastidiosa</i>	目視調査	カンキツ属、なし	4	0
29	—	イネミイラ黴病菌等その他 国内未発生のイネの病害虫	目視調査	イネ	2	0
30	線虫類	テンサイシストセンチュウ	"目視調査 (異常があれば抜き取り調査 又は土壌調査)"	キャベツ	2	0
31	糸状菌	<i>Ramularia collo-cygni</i>	目視調査	コムギ	2	0
32	細菌	スイカ果実汚斑細菌病菌	目視調査	メロン	4	0
33	ウイルス	ウメ輪紋ウイルス (PPV)	目視調査	もも	4	0

〔評価・改善〕

- ・今後も、よりの確な情報の提供を念頭に、指定病害虫及び指定外病害虫の発生予察、重要病害の侵入警戒調査を実施するとともに、主要病害虫を中心に地域実験予察調査に取り組む。また、それらをとおして経験の浅い職員の資質の向上を図る。
- ・なお、前年度に根絶が確認された重要病害虫であるアリモドキゾウムシについて、本年度も発生は確認されなかった。今後は調査地点数を徐々に減らしつつ侵入を警戒していく。

イ 病害虫防除対策業務

(ア) 病害虫防除員の設置

非常勤職員の病害虫防除員を委嘱し、担当作目の当該地域（62地域）における病害虫発生の

状況調査と防除の推進、農薬安全指導等の業務に当たさせた。また、その活動を円滑に進めるために指導や研修会を行った。

○病害虫防除員の設置状況

担当 作目	穀類		茶	果樹				野菜・芋類				きく	計
	水稻	麦		柑橘	なし	かき	その他	いらご	トマト	ばれいしょ	その他		
人数	13	1	12	8	3	4	4	6	4	2	18	1	75*

* なしと水稻の作目を兼務している防除員が1名いることから、計75名。

(イ) 講演会、研修会等による調査及び研究成果の発表、病害虫防除・農薬安全使用指導

調査研究成果や予察調査結果等を講演会や病害虫防除指導研修会、農薬安全使用指導研修会及び学会等で発表することにより情報提供や防除・農薬安全指導を行った。

○調査及び研究成果等の発表状況

講演会、研修会等の回数及び参集者数	学会等発表回数
23回 758人	1回

(ウ) 病害虫防除指導

上記JA、農家等からの防除対策の相談に応ずるとともに、特殊な病害虫については、所管の農林事務所と連携し適切な防除指導を行った。

〔評価・改善〕

・今後も病害虫防除員等の資質向上を図るとともに、講演会や防除歴検討会への出席等により成果等の情報伝達に努め、積極的に防除指導等を行っていく。

ウ 農薬安全使用対策業務

(ア) 「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」編集及び農薬情報システムの運用

新たな病害虫の発生や農薬に対する抵抗性獲得病害虫に的確に対処し、安全・安心な農産物の生産に寄与するため、「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」の編集を行い、農薬情報システムにより病害虫防除所ホームページ上で公開した。日本植物防疫協会の JPP-NET の更新データを反映するシステムのため、農薬登録情報は常に最新のデータとなっている。

○インターネットでの「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」の利用実績

R7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
アクセス数	549	554	649	636	555	482	614	335	298	372	316	323	5,683

(注) 4月24日から公開し、3月31日までの実績

(イ) 農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準の改正事項の通知及び説明会

病害虫の防除及び適正な農薬使用を徹底するため、「農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準」の改正事項を通知すると共に、説明会を実施した。

実施事項	実施日	開催地	出席者	対 象
改正事項 通知	令和7年5月9日	—	—	農協、農薬卸小売業者、農林事務所等

(ウ) 農薬安全使用講習会の開催

農薬の安全使用を推進するために食と農の振興課、農林事務所と協力して、市町、農協、病害虫防除員、農薬卸小売業者等を対象に講習会を開催した。

講演会、研修会等の回数及び参集者数 23回 758人

注：イ（イ）の再掲

〔評価・改善〕

- ・関係機関と連携して、講演会、研修会等の場において適正な農薬使用の徹底を図る。

エ 病害虫診断業務

植物保護・環境保全科と分担して農林技術研究所本所の所管する、稲、麦、野菜、花きの他、茶、かんきつ、落葉果樹について病害虫診断依頼に対応した。

持ち込みによる診断・回答件数 32件

〔評価・改善〕

- ・病害虫診断は、対象とする作物が多く、高度な知識、技能、経験を要するため、職員を各種研修会、学会などに派遣して資質向上を図る。

主要病害虫の発生概況調

(令和5年度)

(1) 水稻

(栽培面積 15,300ha)

区 分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	2,250	1.4	451	2.2	1.0	発病株率%
穂いもち	0	—	0	0	—	発病株率%
白葉枯病	450	—	0	0.1	—	発病株率%
紋枯病	6,259	0.7	1,390	8.7	0.8	発病株率%
萎縮病	450	3.7	0	0.1	2.5	発病株率%
縞葉枯病	900	1.0	0	0.2	0.3	発病株率%
ニカメイチュウ	1,391	1.1	0	0.4	0.7	被害株率%
ツマグロヨコバイ	5,564	0.9	0	0.8	0.8	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	13,050	1.8	900	1.8	1.7	最高寄生数/株
セジロウンカ	6,259	0.8	0	1.6	0.8	最高寄生数/株
トビイロウンカ	695	0.3	0	0.05	0.06	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	3,326	0.5	1,996	5.2	0.5	被害株率%
斑点米カメムシ類	11,309	2.1	2,661	3.7	2.6	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和5年度)

(2) 茶

(栽培面積 13,800ha)

区 分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
炭疽病	13,248	1.3	1,380	32.0	1.9	発病葉数/1.25㎡
もち病	5,796	1.6	828	14.6	2.1	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	9,936	1.1	0	5.9	1.1	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	2,484	0.9	276	0.4	0.6	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	4,968	2.8	0	0.7	2.5	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	8,556	1.6	0	2.7	1.2	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	9,384	2.3	4,692	10.3	4.4	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコバイ	12,972	1.3	3,588	6.6	1.4	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	5,244	0.9	1,104	9.4	0.8	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	12,696	1.0	276	13.0	1.2	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和5年度)
(栽培面積 5,290ha)

(3) 温州みかん

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
そうか病	1,234	0.5	352	0.3	1.6	発病度
黒点病	4,585	1.5	0	1.3	1.0	発病度
かいよう病	182	0.9	0	0.01	0.5	発病度
ヤノネカイガラムシ	176	0.8	0	0.02	0.2	寄生(葉)果率%
ミカンハダニ	3,466	1.7	912	13.5	2.9	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	730	2.4	0	0.4	4.0	寄生枝率%
ツノロウムシ	182	1.0	0	0.03	0.6	寄生枝率%
チャノキロアザミウマ	182	0.2	0	0.01	0.1	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和6年度)
(栽培面積 15,000ha)

(1) 水稻

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	636	0.5	0	0.6	0.3	発病株率%
穂いもち	0	—	0	0	—	発病株率%
白葉枯病	0	—	0	0	—	発病株率%
紋枯病	5,000	0.6	1,154	7.2	0.6	発病株率%
萎縮病	0	—	0	0	—	発病株率%
縮葉枯病	341	0.3	0	0.1	0.2	発病株率%
ニカメイチュウ	769	0.9	0	0.2	0.3	被害株率%
ツマグロヨコバイ	2,791	0.5	0	0.4	0.4	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	5,266	0.8	1,044	1.4	1.4	最高寄生数/株
セジロウンカ	6,034	0.8	0	1.8	0.9	最高寄生数/株
トビイロウンカ	349	0.3	0	0.02	0.02	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	7,921	1.2	6,207	19.2	1.8	被害株率%
斑点米カメムシ類	8,550	1.5	1,050	1.9	1.2	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(2) 茶

(令和6年度)
(栽培面積 13,300ha)

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
炭疽病	11,172	1.1	1,064	18.9	1.0	発病葉数/1.25㎡
もち病	5,320	1.4	266	6.4	0.8	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	8,246	0.8	266	9.9	0.5	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	2,660	1.6	266	0.7	3.4	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	4,256	2.2	0	0.4	1.3	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	5,054	0.9	0	1.2	0.5	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	8,778	1.9	4,256	10.0	3.0	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコバイ	11,970	1.2	4,788	7.6	1.5	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	3,990	0.8	1,330	6.6	0.6	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	12,768	1.1	1,862	17.6	1.6	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(3) 温州みかん

(令和6年度)
(栽培面積 5,210ha)

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
そうか病	1,563	1.8	0	0.7	3.4	発病度
黒点病	5,210	1.7	869	11.0	7.7	発病度
かいよう病	1,216	5.4	0	0.47	23.5	発病度
ヤノネカイガラムシ	174	5.0	0	0.1	14.3	寄生(葉)果率%
ミカンハダニ	2,952	1.3	1,390	16.0	2.8	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	347	0.9	0	0.07	0.5	寄生枝率%
ツノロウムシ	347	1.3	0	0.1	1.3	寄生枝率%
チャノキイロアザミウマ	4,168	1.3	0	0.75	1.1	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(1) 水稻 (令和7年度)
(栽培面積 15,500ha)

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	3,480	2.0	870	3.9	1.7	発病株率%
穂いもち	0	—	0	0	—	発病株率%
白葉枯病	0	—	0	0	—	発病株率%
紋枯病	4,265	0.5	1,278	8.7	0.8	発病株率%
萎縮病	0	—	0	0	—	発病株率%
縞葉枯病	580	0.6	0	0.3	0.6	発病株率%
ニカメイチュウ	2,132	1.5	0	0.8	1.5	被害株率%
ツマグロヨコバイ	2,197	0.4	1,318	0.8	0.6	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	1,740	0.3	0	0.1	0.1	最高寄生数/株
セジロウンカ	617	0.1	0	0.04	0.07	最高寄生数/株
トビイロウンカ	0	—	0	0	—	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	5,220	0.8	2,900	6.6	0.6	被害株率%
斑点米カメムシ類	13,175	1.1	8,555	40.1	2.0	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(2) 茶 (令和7年度)
(栽培面積 13,300ha)

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
炭疽病	11,172	1.3	532	9.4	0.6	発病葉数/1.25㎡
もち病	532	0.1	0	0.1	0.0	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	10,906	1.1	1,596	29.3	1.6	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	3,529	1.9	271	0.7	2.3	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	4,614	2.3	271	0.9	3.3	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	2,394	0.4	0	0.7	0.6	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	6,384	1.2	2,660	5.1	1.2	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコバイ	9,044	1.1	1,330	3.3	0.6	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	5,852	1.3	1,862	9.4	1.1	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	12,236	1.1	2,128	21.2	2.0	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(3) 温州みかん

(令和7年度)
(栽培面積 5,120ha)

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比 (倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
そうか病	530	0.5	0	0.2	1.9	発病度 (果実)
黒点病	4,608	1.3	171	3.3	2.2	発病度 (果実)
かいよう病	1,195	3.9	0	0.5	6.1	発病度 (果実)
ヤノネカイガラムシ	171	0.7	0	0.03	0.2	寄生果率%
ミカンハダニ	3,354	1.5	530	8.5	1.3	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	0	-	0	0	-	寄生枝率%
ツノロウムシ	0	-	0	0	-	寄生枝率%
チャノキイロアザミウマ	4,779	1.6	171	2.3	6.5	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(3) 事業の根拠法令調

事業名	根拠法令
(農林技術研究所, 病虫害防除所関係)	
農業に関する試験研究事業	農業改良助長法 (第2章) 静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)
バイオマス利活用フロンティア推進事業	地力増進法 (第4条、第5条、第8条)
肥料検査事業	肥料の品質の確保等に関する法律 (第30条)
農薬残留研究調査事業	農薬取締法 (第2条、第3条)
植物防疫対策事業	植物防疫法 (第32条、第33条)
病虫害発生予察事業	植物防疫法 (第23条、第31条)
(茶業研究センター関係)	
試験研究事業	農業改良助長法 (第2章) 静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)
病虫害発生予察事業	植物防疫法 (第23条、第31条)
農薬・肥料適正使用管理体制強化事業	農薬取締法 (第2条、第27条、第28条)
ChaOIファクトリー及びオープンラボ	静岡県農林技術研究所茶業研究センター研究開発等施設の設置、管理及び使用料に関する条例
(果樹研究センター関係)	
試験研究事業	農業改良助長法 (第2章) 果樹農業振興特別措置法 (第5章) 静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)
農薬・肥料適正使用管理体制強化事業	農薬取締法 (第2条、第27条、第28条)
病虫害発生予察事業	植物防疫法 (第23条、第31条)
(森林・林業研究センター関係)	
試験研究事業	静岡県森林と県民の共生に関する条例
委託(受託)試験事業	静岡県手数料徴収条例、同要領
林業普及指導事業	森林法 (第187条) 林業普及指導事業実施要領

2 職員状況

(1) 職員の年齢調

農林技術研究所

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上 30歳未満	13	
30歳以上 40歳未満	13	
40歳以上 50歳未満	12	
50歳以上 56歳未満	5	
56歳以上 61歳未満	12	
61歳以上	9	うち再任用職員 8名
計	64	平均年齢 44.0歳

茶業研究センター

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上 30歳未満	5	
30歳以上 40歳未満	7	
40歳以上 50歳未満	4	
50歳以上 56歳未満	1	
56歳以上 61歳未満	3	
61歳以上	3	うち再任用職員2名
計	23	平均年齢 43.2歳

果樹研究センター

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上 30歳未満	5	
30歳以上 40歳未満	6	
40歳以上 50歳未満	2	
50歳以上 56歳未満	3	
56歳以上 61歳未満	2	
61歳以上	5	うち再任用職員 5名
計	23	平均年齢 44.2歳

伊豆農業研究センター

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上 30歳未満	3	
30歳以上 40歳未満	2	
40歳以上 50歳未満	1	
50歳以上 56歳未満	1	
56歳以上 61歳未満	3	
61歳以上		
計	10	平均年齢 41.9歳

森林・林業研究センター

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上 30歳未満	4	
30歳以上 40歳未満	5	
40歳以上 50歳未満	3	
50歳以上 56歳未満	2	
56歳以上 61歳未満	3	
61歳以上	2	うち再任用職員 2名
計	19	平均年齢 43.4歳

(2) 健康 管 理

1 令和7年度受診状況

(農林技術研究所)

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 62人
	職員数 62人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

(茶業研究センター)

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 22人
	職員数 22人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

(果樹研究センター)

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 23人
	職員数 23人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

(伊豆農業研究センター)

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 10人
	職員数 10人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

(森林・林業研究センター)

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 18人
	職員数 18人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 令和8年度在籍者の健康管理区分結果
(農林技術研究所)

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な時間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさせる。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	1人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	25人 (25人)
D 2		要経過観察	18人 (18人)
D 3		医 療 不 要	16人 (16人)
区 分 者 計			60人 (60人)
未区分者数			4人
合 計			64人 (64人)

(1) 管理区分A～C2該当者に対する措置状況

体調に応じて時間外勤務を制限している。

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 2人
イ 新規採用 2人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他 () 人

(茶業研究センター)

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な時間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさせる。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行っており、症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	8人 (8人)
D 2		要経過観察	5人 (5人)
D 3		医 療 不 要	8人 (8人)
区 分 者 計			21人 (21人)
未区分者数			2人
合 計			23人 (23人)

(1) 管理区分A～C2該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 人
イ 新規採用 2人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他 () 人

(果樹研究センター)

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な時間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさせる。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行っていが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	1人
C 2		要経過観察	人
D 1		平常の勤務でよい。	要 治 療
D 2	要経過観察		8人 (8人)
D 3	医 療 不 要		2人 (2人)
区 分 者 計			22人 (22人)
未区分者数			1人
合 計			23人 (23人)

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

体調に応じて時間外勤務を制限している。

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 人
 イ 新規採用 1人
 ウ 自己都合による未受診 人
 エ その他
 () 人

(伊豆農業研究センター)

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な時間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさせる。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行っておりが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1		要 治 療	6人 (6人)
D 2	平常の勤務でよい。	要経過観察	2人 (2人)
D 3		医 療 不 要	2人 (2人)
区 分 者 計			10人 (10人)
未区分者数			人
合 計			10人 (10人)

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 人
 イ 新規採用 人
 ウ 自己都合による未受診 人
 エ その他
 () 人

(森林・林業研究センター)

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な時間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行っているが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	6人 (6人)
D 2		要経過観察	1人 (1人)
D 3		医 療 不 要	11人 (11人)
区 分 者 計			18人 (18人)
未区分者数			1人 (1人)
合 計			19人 (19人)

(1) 管理区分A～C 2該当者に対する措置状況

C 1：時間外勤務及び遠方への出張を控えている。

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 人
イ 新規採用 1人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他
(自己啓発等休業) 人

- (注) 1 健康管理区分結果は、調査調製日現在在籍している職員（様式第2号-2の記載対象者と同じ。）について記載する。
- 2 本年度の健康管理区分結果が出ていない職員については、前年度の結果を記載し、() 書きで再掲する。
- 3 前年度に市町等へ派遣されていた職員等は、派遣先等の健康診断結果等に基づき、該当箇所に記載する。

(3) 職員配置調

職 員 配 置 調

(令和8年4月1日現在)

区 分	農 林 技 術 研 究 所											小計	
	総務課	企画 調整部	次世代栽 培システム科	野菜生産 技術科	花き生産 技術科	水田農業 生産技術 科	農業ロ ボット・経 営戦略科	加工技術 科	植物保 護・環境 保全科	栄養・機 能性科	病害虫 防除所		
所 在 地	磐 田 市 富 丘 678-1												
担当区域	県 内 全 域												
配置職員	職員(事)	6										6 (-)	
	職員(技)	5	3	2	5	4	6	4	2	5	2	5	43 (-)
	職員(業)		7										7 (-)
	再任用職員 (事)	1											1
	再任用職員 (技)		1	2					1	1	1	1	7
	再任用職員 (業)												0 (-)
	会計年度任 用職員	(3)	(22)	(2)									(27)
	臨時的任用 職員												(-)
計	12 (3)	11 (22)	4 (2)	5 (-)	4 (-)	6 (-)	4 (-)	3 (-)	6 (-)	3 (-)	6 (-)	64 (27)	

(注) () のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

区 分	茶業研究センター					果樹研究センター					
	総務課 茶業分室	茶生産 技術科	茶環境 適応 技術科	新商品 開発科	小計	総務課 果樹分室	果樹生産 技術科	果樹環境 適応技術 科	果樹加工 技術科	小計	
所 在 地	菊川市倉沢1706-11					静岡市清水区茂畑					
担当区域	県 内 全 域					県 内 全 域					
配置職員	職員(事)	3			3 (-)	1				1 (-)	
	職員(技)	2	5	4 (1)	5	16 (1)	2	5	6	2	15 (-)
	職員(業)	2				2 (-)	2				2 (-)
	再任用職員 (事)					0 (-)	2				2 (-)
	再任用職員 (技)		1	1		2 (-)		1		2	3 (-)
	再任用職員 (業)					0 (-)					0 (-)
	会計年度任用 職員	(9)				(9)	(7)				(7)
	臨時的任用 職員					(-)					(-)
	計	7 (9)	6 (-)	5 (1)	5 (-)	23 (10)	7 (7)	6 (-)	6 (-)	4 (-)	23 (7)

(注) () のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

区 分	伊豆農業研究センター				森林・林業研究センター					合計
	(総務課)	生育・加工技術科	わさび生産技術科	小計	総務課 林業分室	企画指導 スタッフ	森林育成 科	森林資源 利用科	小計	
所 在 地	賀茂郡東伊豆町 稲取3012		伊豆市 湯ヶ島 2860-25		浜松市浜名区根堅2542-8					
担当区域	県 内 全 域				県 内 全 域					
配置職員	職員(事)	(2)		0 (2)	2				2 (-)	12 (2)
	職員(技)	1	4	3	8 (-)	2	1	7	4	14 (-)
	職員(業)		1	1	2 (-)	1				1 (-)
	再任用職員(事)				0	1				1
	再任用職員(技)				0					0
	再任用職員(業)				0 (-)	1				1 (-)
	会計年度任用職員	(1)	(3)	(1)	(5)	(1)		(1)	(2)	0 (50)
	臨時的任用職員				(-)					(-)
計		1 (3)	5 (3)	4 (1)	10 (7)	7 (1)	1 (-)	7 (-)	4 (1)	19 (2)
										139 (53)

(注) ()のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A 円	収 入 済 額	
		納 期 内 B 円	納 期 後 C 円
款 08使用料及び手数料			
項 01使用料	63,160	10,500	52,660
目 06経済産業使用料	63,160	10,500	52,660
12庁舎等使用料	63,160	10,500	52,660
款 10財産収入	1,087,401	1,077,021	10,380
項 01財産運用収入	161,710	151,330	10,380
目 01財産貸付収入	161,710	151,330	10,380
02土地貸付料	12,110	1,730	10,380
03建物貸付料	149,600	149,600	0
項 02財産売却収入	925,691	925,691	0
目 03生産物売却収入	925,691	925,691	0
02農業関係技術研究所生産物売却収入	925,691	925,691	0
款 14諸収入	4,489,300	4,489,300	0
項 04受託事業収入	3,100,400	3,100,400	0
目 05経済産業受託事業収入	3,100,400	3,100,400	0
02農薬試験受託料	3,100,400	3,100,400	0
項 07雑入	1,388,900	1,388,900	0
目 02雑入	1,388,900	1,388,900	0
87保険料負担金	1,142,643	1,142,643	0
非常勤職員	1,142,643	1,142,643	0
90雑収	246,257	246,257	0
計	5,639,861	5,576,821	63,040

執 行 状 況 調

(令和 6年度)
(令和 7年 5月31日現在)

不 納 欠 損 額 D	収 入 未 済 額			収 入 歩 合 $\frac{B+C}{A-D-F}$	納 期 内 収 入 率 $\frac{B}{A-D-F}$
	納 期 限 経 過 E	納 期 限 未 到 来 F	計		
円	円	円	円	%	%
0	0	0	0	100.0	16.6
0	0	0	0	100.0	16.6
0	0	0	0	100.0	16.6
0	0	0	0	100.0	16.6
0	0	0	0	100.0	99.0
0	0	0	0	100.0	93.5
0	0	0	0	100.0	93.5
0	0	0	0	100.0	14.2
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	98.8

ZIB0090
ZIRB0090

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A 円	収 入 予 算 額	
		納 期 内 B 円	納 期 後 C 円
款 08使用料及び手数料	44,360	28,500	15,860
項 01使用料	44,360	28,500	15,860
目 07経済産業使用料	44,360	28,500	15,860
12庁舎等使用料	44,360	28,500	15,860
款 10財産収入	1,173,383	1,169,667	3,716
項 01財産運用収入	165,426	161,710	3,716
目 01財産貸付収入	165,426	161,710	3,716
02土地貸付料	15,826	12,110	3,716
03建物貸付料	149,600	149,600	0
項 02財産売払収入	1,007,957	1,007,957	0
目 03生産物売払収入	1,007,957	1,007,957	0
02農業関係技術研究所生産物売払収入	1,007,957	1,007,957	0
款 14諸収入	4,318,578	4,306,807	10,000
項 04受託事業収入	2,995,400	2,995,400	0
目 04経済産業受託事業収入	2,995,400	2,995,400	0
02農薬試験受託料	2,995,400	2,995,400	0
項 07雑入	1,323,178	1,311,407	10,000
目 02雑入	1,323,178	1,311,407	10,000
90保険料負担金	946,553	946,553	0
非常勤職員	946,553	946,553	0
93雑収	376,625	364,854	10,000
計	5,536,321	5,504,974	29,576

執 行 状 況 調

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

不 納 欠 損 額 D	収 入 未 済 額			収 入 歩 合	納 期 内 収 入 率
	納 期 限 経 過 E	納 期 限 未 到 来 F	計	$\frac{B+C}{A-D-F}$	$\frac{B}{A-D-F}$
円	円	円	円	%	%
0	0	0	0	100.0	64.2
0	0	0	0	100.0	64.2
0	0	0	0	100.0	64.2
0	0	0	0	100.0	64.2
0	0	0	0	100.0	99.6
0	0	0	0	100.0	97.7
0	0	0	0	100.0	97.7
0	0	0	0	100.0	76.5
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	1,771	1,771	100.0	99.7
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	1,771	1,771	100.0	99.2
0	0	1,771	1,771	100.0	99.2
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	1,771	1,771	100.0	97.3
0	0	1,771	1,771	100.0	99.4

ZIB0090
ZIRB0090

保管現金有高調

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

現金保管者	区分	金額 (円)
総務課果樹分室長	有料道路及び有料駐車場継続的資金前渡	2,250

預金調

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘要
清水銀行駒越支店	無利息型 普通預金	2134514	静岡県農林技術研究所 果樹研究センター 資金前渡者 □□ □□	0	負担金等
清水銀行駒越支店	無利息型 普通預金	2134522	(自振口)静岡県農林技術研 究所果樹研究センター 資金前渡者 □□ □□	0	光熱水費等
			残高合計	0	

郵 券 等

区 分	種 類	6 年 度					
		繰 越		受 入		払 出	
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額
センター							
郵便	10円券	95	950	400	4,000	359	3,590
	26円券	0	0	19	494	19	494
	84円券	53	4,452	50	4,200	103	8,652
	100円券	135	13,500	0	0	85	8,500
	110円券	0	0	100	11,000	5	550
	120円券	126	15,120	100	12,000	206	24,720
	180円券	0	0	200	36,000	26	4,680
計			34,022		67,694		51,186
収入印紙	1000円券	1	1,000	0	0	1	1,000
収入印紙	5000円券	0	0	1	5,000	1	5,000
収入印紙	6000円券	0	0	8	48,000	8	48,000
収入印紙	30000円券	0	0	4	120,000	4	120,000
計			1,000		173,000		174,000

受 払 調

(令和 8 年 2 月 28 日現在)

(単位：枚、円)

7 年度								摘要
繰越		受入		払出		差引現在高		
枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
136	1,360	0	0	43	430	93	930	郵便
0	0	0	0	0	0	0	0	郵便
0	0	0	0	0	0	0	0	郵便
50	5,000	100	10,000	71	7,100	79	7,900	郵便
95	10,450	150	16,500	147	16,170	98	10,780	
20	2,400	100	12,000	54	6,480	66	7,920	郵便
174	31,320	0	0	146	26,280	28	5,040	郵便
	50,530		38,500		56,460		32,570	郵便
0	0	0	0	0	0	0	0	品種登録料
0	0	0	0	0	0	0	0	品種登録料
0	0	0	0	0	0	0	0	品種登録料
0	0	0	0	0	0	0	0	品種登録料
	0		0		0		0	



歳入歳出外現金調

経済産業部 農林研果樹研セ

(令和 6年度)
(令和 7年 3月31日現在)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
保証金	円 14,960	円 0	円 0	円 14,960	
計	14,960	0	0	14,960	

ZIB0070
ZIRB0070



歳入歳出外現金調

経済産業部 農技研果樹研セ

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
保証金	円 14,960	円 0	円 0	円 14,960	
計	14,960	0	0	14,960	

ZIB0070
ZIRB0070

歳出予算執行状況調

(令和 6年度)

(令和 7年 5月31日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 04 経営管理費	3,800,795	3,800,795	0	
項 01 経営管理費	3,800,795	3,800,795	0	
目 01 一般総務費	3,437,835	3,437,835	0	
01 報酬	1,783,682	1,783,682	0	
03 非常勤職員報酬	1,783,682	1,783,682	0	
03 職員手当等	718,254	718,254	0	
01 その他の職員手当等	718,254	718,254	0	
04 共済費	838,579	838,579	0	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	142,307	142,307	0	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	696,272	696,272	0	
08 旅費	97,320	97,320	0	
01 その他の旅費	97,320	97,320	0	
目 03 行政経営費	362,960	362,960	0	
08 旅費	362,960	362,960	0	
02 普通旅費	362,960	362,960	0	
款 08 経済産業費	63,623,402	63,590,002	33,400	
項 01 経済産業費	2,006,220	2,006,220	0	
目 01 経済産業総務費	1,993,000	1,993,000	0	
01 報酬	1,332,000	1,332,000	0	
03 非常勤職員報酬	1,332,000	1,332,000	0	
03 職員手当等	410,000	410,000	0	
01 その他の職員手当等	410,000	410,000	0	
04 共済費	251,000	251,000	0	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	52,000	52,000	0	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	199,000	199,000	0	
目 02 経済産業企画費	13,220	13,220	0	
08 旅費	13,220	13,220	0	
02 普通旅費	13,220	13,220	0	

経済産業部 農技研果樹研セ

ZIB0030
ZIRB0030

一般会計

(令和 6年度)

(令和 7年 5月31日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
項 02産業革新費	23,925,539	23,892,139	33,400	
目 01産業革新費	23,925,539	23,892,139	33,400	
01報酬	411,000	411,000	0	
03非常勤職員報酬	411,000	411,000	0	
08旅費	953,053	953,053	0	
02普通旅費	953,053	953,053	0	
10需用費	8,526,724	8,526,724	0	
01その他の需用費	8,526,724	8,526,724	0	
11役務費	2,390,402	2,390,402	0	
12委託料	4,375,800	4,375,800	0	
13使用料及び賃借料	2,317,260	2,317,260	0	
17備品購入費	4,546,300	4,546,300	0	
18負担金、補助及び交付金	405,000	371,600	33,400	
項 05農業費	37,691,643	37,691,643	0	
目 01農業費	37,691,643	37,691,643	0	
01報酬	8,134,871	8,134,871	0	
03非常勤職員報酬	8,134,871	8,134,871	0	
03職員手当等	1,918,353	1,918,353	0	
01その他の職員手当等	1,918,353	1,918,353	0	
04共済費	2,115,723	2,115,723	0	
01地方公務員共済組合に対する負担金	429,861	429,861	0	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	1,685,862	1,685,862	0	
08旅費	1,593,753	1,593,753	0	
01その他の旅費	628,593	628,593	0	
02普通旅費	965,160	965,160	0	
10需用費	14,384,350	14,384,350	0	
01その他の需用費	14,384,350	14,384,350	0	
11役務費	1,765,746	1,765,746	0	

ZIB0030
ZIRB0030

経済産業部 農技研果樹研セ

一般会計

(令和 6年度)
(令和 7年 5月31日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
12 委託料	2,513,046	2,513,046	0	
13 使用料及び賃借料	447,993	447,993	0	
14 工事請負費	935,000	935,000	0	
17 備品購入費	3,724,710	3,724,710	0	
18 負担金、補助及び交付金	83,898	83,898	0	
26 公課費	74,200	74,200	0	
計	67,424,197	67,390,797	33,400	

歳出予算執行状況調

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 03 総務費	2,770,612	1,003,966	1,766,646	
項 01 総務費	2,770,612	1,003,966	1,766,646	
目 01 一般総務費	2,770,612	1,003,966	1,766,646	
01 報酬	1,693,000	543,515	1,149,485	
03 非常勤職員報酬	1,693,000	543,515	1,149,485	
03 職員手当等	135,000	0	135,000	
01 その他の職員手当等	135,000	0	135,000	
04 共済費	817,612	424,975	392,637	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	106,000	36,192	69,808	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	711,612	388,783	322,829	
08 旅費	125,000	35,476	89,524	
01 その他の旅費	125,000	35,476	89,524	
款 09 経済産業費	72,632,321	59,926,630	12,705,691	
項 01 経済産業費	909,910	903,910	6,000	
目 01 経済産業総務費	889,000	889,000	0	
01 報酬	629,000	629,000	0	
03 非常勤職員報酬	629,000	629,000	0	
03 職員手当等	207,000	207,000	0	
01 その他の職員手当等	207,000	207,000	0	
04 共済費	53,000	53,000	0	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	12,000	12,000	0	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	41,000	41,000	0	
目 02 経済産業企画費	20,910	14,910	6,000	
08 旅費	20,910	14,910	6,000	
02 普通旅費	20,910	14,910	6,000	
項 02 産業革新費	25,823,850	22,923,246	2,900,604	
目 01 産業革新費	25,823,850	22,923,246	2,900,604	
01 報酬	411,000	411,000	0	

経済産業部 農技研果樹研セ

ZIB0030
ZIRB0030

一般会計

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
03 非常勤職員報酬	411,000	411,000	0	
08 旅費	980,000	678,610	301,390	
02 普通旅費	980,000	678,610	301,390	
10 需用費	9,696,140	7,749,165	1,946,975	
01 その他の需用費	9,696,140	7,749,165	1,946,975	
11 役務費	884,850	797,461	87,389	
13 使用料及び賃借料	2,356,860	1,970,650	386,210	
17 備品購入費	10,992,000	10,968,760	23,240	
18 負担金、補助及び交付金	503,000	347,600	155,400	
項 05 農業費	45,898,561	36,099,474	9,799,087	
目 01 農業費	45,898,561	36,099,474	9,799,087	
01 報酬	9,828,000	7,705,518	2,122,482	
03 非常勤職員報酬	9,828,000	7,705,518	2,122,482	
03 職員手当等	2,991,000	2,829,800	161,200	
01 その他の職員手当等	2,991,000	2,829,800	161,200	
04 共済費	2,619,000	2,239,286	379,714	
01 地方公務員共済組合に対する負担金	524,000	499,226	24,774	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	2,095,000	1,740,060	354,940	
08 旅費	3,117,820	1,629,327	1,488,493	
01 その他の旅費	671,000	567,947	103,053	
02 普通旅費	2,446,820	1,061,380	1,385,440	
10 需用費	20,123,400	16,045,762	4,077,638	
01 その他の需用費	20,123,400	16,045,762	4,077,638	
11 役務費	1,865,000	1,030,868	834,132	
12 委託料	2,909,000	2,438,960	470,040	
13 使用料及び賃借料	502,341	305,908	196,433	
17 備品購入費	1,680,000	1,671,406	8,594	
18 負担金、補助及び交付金	179,000	118,639	60,361	

経済産業部 農技研果樹研セ

ZIB0030
ZIRB0030

一般会計

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
26 公課費	84,000	84,000	0	
計	75,402,933	60,930,596	14,472,337	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額(円)		
					5年度 (4年度)	6年度 (5年度)	左のうち、5年度 からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		4,375,800	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		2,513,046	
計					9,111,144	6,888,846	0
(14)工事請負費	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		935,000	
計					0	935,000	0
(16)公有財産購入費							
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		4,546,300	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		3,724,710	
計					8,482,522	8,271,010	0
(18)負担金、補助金及び交付金	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		371,600	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		83,898	
計					1,057,623	455,498	0
(21)補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和8年2月28日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額(円)	
						うち、5年度からの繰越繰分
(12)委託料	一般会計	経済産業費	農業費	農業費	2,438,960	0
						0
計					2,438,960	0
(14)工事請負費					0	0
計					0	0
(16)公有財産購入費						
計					0	0
(17)備品購入費	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	10,968,760	0
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費	1,671,406	0
計					12,640,166	0
(18)負担金、補助金及び交付金	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	347,600	0
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費	118,639	0
計					466,239	0
(21)補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に

整理 番号	委託業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法
				当初額	変更増減額	計	
1	自家用電気工作物の保安管理業務委託	一般財団法人中部電気保安協会清水営業所	円 434,940	円 386,760	円 0	円 386,760	随契
2	消防用設備等点検業務委託	総合防災株式会社	277,970	277,200	0	277,200	〃
3	し尿浄化槽維持管理業務委託	清水ライフクリーン株式会社	109,883	107,800	0	107,800	〃
4	警備業務委託	総合警備保障株式会社静岡支社	990,000 198,000 上段は、 5年合計	990,000 198,000	0 0	990,000 198,000	〃
5	廃棄物処理業務委託	ヤマダユニア株式会社	99,700	可燃ゴミ 208円/袋 びん 660円/袋 かん 330円/袋 ペットボトル 220円/袋	0	99,700	〃
6	清掃業務委託	ヤマダユニア株式会社	999,900	990,000	0	990,000	〃
7	自動扉開閉装置保守点検業務委託	中日本オート・ドア株式会社	39,600	39,600	0	39,600	〃
8	建築基準法第12条に基づく定期点検業務委託(建築及び建築設備)	株式会社□□□建築設計事務所	261,360	261,360	0	261,360	〃
9	産業廃棄物処理業務委託	株式会社リサイクルクリーン	99,000	97,500	0	97,500	〃
10	産業廃棄物処理業務委託	株式会社リサイクルクリーン	99,000	97,500	0	97,500	〃
11	ウンシュウミカン樹の生体情報解析に関する業務委託	一般財団法人リモート・センシング技術センター	4,376,869	4,375,800	0	4,375,800	〃
合 計		11 件					

関する調

(令和6年度)

契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
6.4.1 ～ 7.3.31	6.4.25	円 386,760	自家用電気工作物の保守	随契1号 (少額)
6.4.1 ～ 7.3.31	6.10.7 7.3.14 小計	161,700 115,500 277,200	火災報知器の保守点検	〃
6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.9 6.7.31 6.10.31 7.1.6 7.1.31 小計	9,625 9,625 9,625 69,300 9,625 107,800	浄化槽維持管理及び清掃	〃
6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.20 6.6.21 6.7.18 6.8.21 6.9.20 6.10.18 6.11.21 6.12.24 7.1.22 7.2.20 7.3.19 7.4.23 小計	支出済累計額 693,000 当該年度 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 198,000	24時間完全機械警備	随契1号 (少額) ※令和2年度 長期継続 契約
6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.20 6.6.19 6.7.18 6.8.21 6.9.18 6.10.18 6.11.20 6.12.19 7.1.22 7.2.19 7.3.19 7.4.16 小計	5,444 4,588 4,942 5,554 4,758 3,572 4,930 4,380 4,820 4,832 3,964 5,542 57,326	一般廃棄物の運搬及び処分	随契1号 (少額) 単価契約
6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.20 6.6.19 6.7.18 6.8.26 6.9.18 6.10.18 6.11.20 6.12.19 7.1.22 7.2.19 7.3.19 7.4.16 小計	82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 990,000	庁舎内の清掃	随契1号 (少額) /
6.4.1 ～ 7.3.31	6.7.12 6.12.26 小計	19,800 19,800 39,600	自動扉開閉装置の保守	〃
6.7.19 ～ 6.8.30	6.9.19	261,360	建築基準法に基づく庁舎（農機具保管庫及び車庫）定期点検	〃
6.7.30 ～ 7.3.31	6.12.26	97,500	産業廃棄物の収集運搬及び処分（8㎡）	〃
6.12.11 ～ 7.3.31	7.4.8	97,500	産業廃棄物の収集運搬及び処分（8㎡）	〃
6.11.15 ～ 7.1.10	7.2.6	4,375,800	無人航空機による空撮画像の解析処理システムの開発	随契2号 (不適)
		6,888,846		

委 託 料 に

整理 番号	委託業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法
				当初額	変更増減額	計	
1	自家用電気工作物の保安管理業務委託	一般財団法人中部電気保安協会清水営業所	円 434,940	円 421,080	円 0	円 421,080	随契
2	消防用設備等点検業務委託	総合防災株式会社	277,376	277,200	0	277,200	#
3	し尿浄化槽維持管理業務委託	清水ライフクリーン株式会社	109,883	107,800	0	107,800	#
4	警備業務委託	総合警備保障株式会社静岡支社	990,000 99,000 上段は、 5年合計	990,000 99,000	0 0	990,000 99,000	#
4	警備業務委託	総合警備保障株式会社静岡支社	990,000 99,000 上段は、 5年合計	990,000 99,000	0 0	990,000 99,000	#
5	廃棄物処理業務委託	ヤマダユニア株式会社	99,880	可燃ゴミ 330円/袋 びん 660円/袋 かん 330円/袋 ペットボトル 220円/袋	0	99,880	#
6	清掃業務委託	ヤマダユニア株式会社	999,900	990,000	0	990,000	#
7	自動扉開閉装置保守点検業務委託	中日本オート・ドア株式会社	39,600	39,600	0	39,600	#
8	建築基準法第12条に基づく定期点検業務委託(建築及び建築設備)	株式会社□□□□建築設計事務所	195,800	194,480	0	194,480	#
9	産業廃棄物処理業務委託	株式会社リサイクルクリーン	99,000	97,500	0	97,500	#
10	産業廃棄物処理業務委託	株式会社リサイクルクリーン	99,000	97,500	0	97,500	#
11	駒越跡地測量業務委託	株式会社フジヤマ	352,000	352,000	0	352,000	#
合 計		12 件					

関する調

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
7.4.1 ～ 8.3.31	7.4.25	421,080	自家用電気工作物の保守	随契1号 (少額)
7.4.1 ～ 8.3.31	7.9.16 小計	161,700 161,700	火災報知器の保守点検	〃
7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.7 7.8.7 7.11.10 8.1.16 8.2.12 小計	9,625 9,625 9,625 69,300 9,625 107,800	浄化槽維持管理及び清掃	〃
7.4.1 ～ 7.9.30	7.5.20 7.6.18 7.7.18 7.8.21 7.9.18 7.10.17 小計	支出済累計額 891,000 当該年度 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 16,500 99,000	24時間完全機械警備	随契1号 (少額) ※令和2年度 長期継続 契約
7.10.1 ～ 8.3.31	7.11.21 7.12.18 8.1.20 8.2.19 小計	支出済累計額 0 当該年度 16,500 16,500 16,500 16,500 66,000	24時間完全機械警備	随契1号 (少額) ※令和7年度 長期継続 契約
7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.20 7.6.18 7.7.16 7.8.18 7.9.16 7.10.16 7.11.18 7.12.18 8.1.19 8.2.18 小計	10,120 6,600 6,380 7,590 6,380 7,370 8,360 5,280 7,590 9,130 74,800	一般廃棄物の運搬及び処分	随契1号 (少額) 単価契約
7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.20 7.6.18 7.7.16 7.8.18 7.9.16 7.10.16 7.11.18 7.12.18 8.1.19 8.2.18 小計	82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 825,000	庁舎内の清掃	随契1号 (少額)
7.4.1 ～ 8.3.31	7.6.30 8.1.9 小計	19,800 19,800 39,600	自動扉開閉装置の保守	〃
7.7.29 ～ 7.8.29	7.9.22	194,480	建築基準法に基づく庁舎（農機具保管庫及び車庫）定期点検	〃
7.6.9 ～ 8.3.31	7.12.9	97,500	産業廃棄物の収集運搬及び処分（8 m ³ ）	〃
7.12.19 ～ 8.3.31			産業廃棄物の収集運搬及び処分（8 m ³ ）	〃
7.8.28 ～ 7.9.30	7.10.17	352,000	隣接地との境界確認	〃
		2,438,960		

負担金支出調

(令和6年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	清水地区安全運転管理協会費	清水地区安全運転管理協会	協会規約	安全運転に関する事項、交通事故防止活動推進	22,000	6.4.19
2	一般社団法人日本UAS産業振興協議会年会費	一般社団法人日本UAS産業振興協議会	協議会会則	無人航空機操縦技能者証明書発行のための会員登録	5,000	6.4.30
3	日本土壌肥料学会福岡大会	株式会社MONS	開催通知	有機農業及び土壌炭素に関する情報収集及び意見交換	9,000	6.5.17
4	一般社団法人日本UAS産業振興協議会年会費	一般社団法人日本UAS産業振興協議会	協議会会則	無人航空機操縦技能者証明書発行のための会員登録	25,000	6.5.17
5	植物防疫技術研修会(基礎)	一般社団法人日本植物防疫協会	開催通知	病害虫薬効薬害試験を実施するための基礎知識及び試験ノウハウの習得	6,600	6.6.25
6	共有品種利用契約書に基づく経常実施料	国立研究開発法人理化学研究所	共有品種利用契約書	共同所有している育成者権に係る許諾実施料の持ち分比率による負担	13,798	6.6.28
7	園芸学会秋季大会	園芸学会令和6年度秋季大会実行委員会	開催通知	柑橘の育種研究成果の発表及び情報交換	15,000	6.8.28
8	安全運転管理者講習会参加手数料	(社)静岡県交通安全運転管理協会	道路交通法第108条の2第1項第1号	安全運転管理の基本理念と技法の習得	4,500	6.10.21
9	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座	公益財団法人静岡県産業振興財団	受講案内	IoTに関する実践的な知識の取得	24,200	6.10.22

10	静岡県施肥研究会	静岡県施肥研究会	開催通知	土壌肥料研究に関する情報収集及び意見交換	3,000	6.12.2
11	静岡県植物病理研究会 総会・研究会	静岡県植物病理研究会	開催通知	植物病理研究に関する情報収集及び意見交換	2,000	6.12.5
12	無人航空機操縦技能者及び安全運航管理者養成講座	株式会社フィード	開催通知	超省力・精密生産管理システムの研究に必要な無人航空機操縦技能者資格取得	295,900	6.12.6
13	一般社団法人日本UAS産業振興協議会 年会費	一般社団法人日本UAS産業振興協議会	協議会規則	無人航空機操縦技能者証明書発行のための会員登録	2,500	6.12.26
14	園芸学会春季大会	園芸学会令和7年度春季大会実行委員会	開催通知	柑橘の育種研究成果の発表及び情報交換	16,000	7.2.5
15	日本応用動物昆虫学会大会	日本応用動物昆虫学会大会事務局	開催通知	樹栽培に関連した有害動物、害虫管理、環境保全及び昆虫利用に関する知識習得	11,000	7.2.7
計		15 件			455,498	

負担金支出調

(令和7年度)
令和8年2月28日

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	日本土壌肥料学会 2025 年度新潟大会	株式会社 M O N S	開催通知	有機農業及び土壌炭素に関する情報収集及び意見交換	9,000	7.4.15
2	清水地区安全運転管理協会費	清水地区安全運転管理協会	協会規約	安全運転に関する事項、交通事故防止活動推進	22,000	7.4.18
3	共有品種利用契約書に基づく経常実施料	国立研究開発法人理化学研究所	共有品種利用契約書	共同所有している育成者権に係る許諾実施料の持ち分比率による負担	28,019	7.5.15
4	一般社団法人日本UAS産業振興協議会年会費	一般社団法人日本UAS産業振興協議会	協議会会則	無人航空機操縦技能者証明書発行のための会員登録	25,000	7.5.23
5	安全運転管理者講習会参加手数料	(社)静岡県交通安全運転管理協会	道路交通法第108条の2第1項第1号	安全運転管理の基本理念と技法の習得	5,100	7.7.23
6	園芸学会令和7年度秋季大会	園芸学会令和7年度秋季大会実行委員会	開催通知	柑橘の育種研究成果の発表及び情報交換	25,520	7.7.29
7	日本土壌肥料学会中部支部・中部土壌肥料研究会例会	日本土壌肥料学会中部支部例会事務局	開催通知	有機農業及び土壌炭素に関する情報収集及び意見交換	3,000	7.10.17
8	農業生産技術管理学会令和7年度大会	農業生産技術管理学会	開催通知	農作物の生産に係る幅広い分野に関する情報収集及び意見交換	8,000	7.11.14
9	静岡県植物病理研究会	静岡県植物病理研究会	開催通知	植物病理研究に関する情報収集及び意見交換	1,000	7.11.20

10	静岡県施肥研究会	静岡県施肥研究会	開催通知	土壌肥料研究に関する情報収集及び意見交換	5,000	7.12.16
11	第70回日本応用動物昆虫学会大会	第70回日本応用動物昆虫学会大会運営委員会	開催通知	果樹栽培に関連した有害動物、害虫管理、環境保全及び昆虫利用に関する知識習得	16,000	7.12.25
12	日本植物病理学会大会	日本植物病理学会	開催通知	植物病理研究に関する情報収集及び意見交換	10,000	8.1.9
13	会計年度任用職員人間ドック事業参加費	地方職員共済組合静岡県支部	実施要領	会計年度任用職員の健康診断	7,000	8.1.27
14	園芸学会令和8年度春季大会	園芸学会令和8年度春季大会運営委員会	開催通知	柑橘の育種研究成果の発表及び情報交換	20,000	8.2.6
15	農業用ドローン講習(更新)	株式会社コヤワタオフィス	実施要領	超省力・精密生産管理システムの研究に必要な無人航空機操縦技能者資格の更新	39,600	8.2.26
16	農業用ドローン講習	株式会社コヤワタオフィス	開催通知	超省力・精密生産管理システムの研究に必要な無人航空機操縦技能者資格取得	242,000	8.2.26
計		16件			466,239	

土 木 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設 計 金 額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	経済産業費	令和6年度果樹研究センター敷地内排水管工事	静岡市駿河区茂畑地内	円 935,000	円 935,000	円
		合 計	件	円	円	円

事 調

(令和6年度)

額	契約締結方法	受注者	着手完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	摘要
計						
935,000	随契 1号 (少額)	株式会社オジマ 土木	R7.3.11 R7.3.26	円 935,000	・排水管設置 L=3m ・集水枡設置 700×700	

公 有 財 産 調

旧本場（駒越）

（令和6年度）

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年3月31日 現 在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 298,339		千円		千円		千円 298,339	
土 地	m ² 70,316.39	298,339	m ²		m ²		m ² 70,316.39	298,339	
工作物	個 4		個		個		個 4		
公有財産に 準ずるもの		478						478	
電話加入権	件 11	478	件		件		件 11	478	

公 有 財 産 調

旧本場（駒越）

（令和7年度）

（令和8年2月28日現在）

区分	令和7年3月31日 現 在		増		減		令和8年2月28日 現 在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 298,339		千円		千円 298,339		千円 0	
土 地	m ² 70,316.39	298,339	m ²		m ² 70,316.39	298,339	m ² 0	0	売却による減
工作物	個 4		個		個 4		個 0		売却による減
公有財産に 準ずるもの		478						478	
電話加入権	件 11	478	件		件		件 11	478	

公 有 財 産 調

旧落葉果樹科

(令和6年度)

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年3月31日 現 在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
普通財産		千円 1,110		千円		千円		千円 1,110	
土 地	m ² 13,172.89	1,110	m ²		m ²		m ² 13,172.89	1,110	
工作物	個 10	0	個		個		個 10	0	
公有財産に 準ずるもの		95						95	
電話加入権	件 3	95	件		件		件 3	95	

令和7年度中増減なし

公 有 財 産 調

旧西遠ほ場

(令和6年度)

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年3月31日 現 在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
公有財産に 準ずるもの		千円 64		千円		千円		千円 64	
電話 加入権	件 3	64	件		件		件 3	64	

令和7年度中増減なし

公 有 財 産 調

本場（茂畑）

（令和6年度）

区分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年3月31日 現 在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,082,498		千円		千円 71,288		千円 1,011,210	
立木竹	本 36		本		本		本 36		
建 物	m ² 2187.65 3171.40	641,681	m ²			25,476	m ² 2187.65 3171.40	616,205	評価替による減
工作物	個 77	440,817	個		個	45,812	個 77	395,005	評価替による減
普通財産		799				194		605	
特許権等	件 9	799	件		件	194	件 9	605	評価替による減
上記の財産に 属さないもの		0						0	
準特許権	件 1	0	件		件		件 1	0	

公 有 財 産 調

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

本場 (茂畑)

区分	令和7年3月31日 現 在		増		減		令和8年2月28日 現 在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,011,210		千円 935		千円		千円 1,012,145	
立木竹	本 36		本		本		本 36		
建 物	m ² <u>2187.65</u> 3171.40	616,205	m ²				m ² <u>2187.65</u> 3171.40	616,205	
工作物	個 77	395,005	個 2	935	個		個 79	395,940	登録漏れに よる増
普通財産		605						605	
特許権等	件 9	605	件		件		件 9	605	
上記の財産に 属さないもの		0						0	
準特許権	件 1	0	件		件		件 1	0	

借 地 借 家 等 調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地目		数量 又は 面積	借料		契約 期間	所有 者又 は契 約者 氏名	用途
				台 帳	現 況		単価	年額			
1	土 地	道 路 敷 地	静岡市清水区 駒越西2丁目 2721-3	雑 種 地	道 路 敷	m ² 0	円 -	円 -	6.4.1 ～ ※ 7.11.27	静岡 市長	2級基準 点設置
2	〃	〃	静岡市清水区 駒越西2丁目 2858-5	道 路	〃	0	-	-	〃	〃	〃
3	〃	〃	静岡市清水区 駒越西2丁目 2820-9	〃	〃	0	-	-	〃	〃	3級基準 点設置
4	〃	〃	静岡市清水区 駒越西2丁目 12-10	山 林	〃	0	-	-	〃	〃	〃
5	〃	耕 地	静岡市清水区 山切字伊野川 原 733-2	畑	畑	0.07	-	-	7.4.1 ～ 12.3.31	個人	案内標識 設置
6	〃	道 路 敷 地	静岡市清水区 山切 17-2	道 路	道 路 敷	0.19	-	-	〃	静岡 市長	〃
7	〃	河 川 敷 地	〃 17-1～ 15-7	河 川	河 川 敷	0.60	-	-	7.4.1 ～ 17.3.31	静岡 県知 事	〃
8	〃	道 路 敷 地	静岡市清水区 茂畑 1301	雑 種 地	道 路 敷	2.92	-	-	3.7.8 ～ 8.3.31	静岡 市長	〃
9	〃	雑 種 地	静岡市清水区 茂畑畑総事業 区域地先	雑 種 地	雑 種 地	53,904	-	-	27.10.1 ～	〃	果樹研究 センター 用地
10	〃	耕 地	静岡市清水区 蒲原 5725	〃	畑	7,213	-	-	7.4.1 ～ 8.3.31	〃	ほ場
合計						61,120.78	-	-			

※No.1～4については、R7.11.27付けで道路占用権利義務を一般財団法人静岡市土地等利活用推進公社へ譲渡済み

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

区分	事業名又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)												
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度		
債務 負担 行為		(契約日)														
	電子複写機の 賃貸借について	複写機の賃貸借 (契約日) 2.10.1	円 1,683,000	円 168,300	円 336,600	円 336,600	円 336,600	円 336,600	円 168,300							
		複写機の賃貸借 (契約日) 7.9.18	円 1,643,400						円 164,340	円 328,680	円 328,680	円 328,680	円 328,680	円 328,680	円 164,340	
		研究用備品の 賃貸借・ 分光分析装置)の 賃貸借について (契約日) 5.7.27	円 11,586,300				円 2,317,260	円 2,317,260	円 2,317,260	円 2,317,260	円 2,317,260	円 2,317,260	円 2,317,260	円 2,317,260	円 2,317,260	
長期 継続 契約	AED（自動体外式 除細動器）の賃 貸借について	AEDの賃貸借 (契約日) 6.8.1	円 248,160						円 41,360	円 62,040	円 62,040	円 62,040	円 20,680	円 20,680	円 20,680	

行政財産貸付・使用許可調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量 又は 面積	貸 付 料 又 は 使 用 料		貸付又は使用 許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付 ・ 使用 許可 目的
				台 帳	現 況		単価	年額			
1	土 地	敷 地	静岡市清水区 駒越西2丁目 12-10	宅 地	宅 地	電柱4本 支柱3本 支線5本	円 1,500	円 18,000	7.4.1 ～ 7.10.8 (使用許 可取消)	西日本電信電 話株式会社静 岡支店長	電気 通信 事業
2	〃	〃	〃	畑	畑	1,415.40 ㎡	—	免除	〃	静岡市長	市道敷
3	〃	〃	〃	〃	〃	55.98 ㎡	—	30,390 △14,530 (使用許可 取消しに 伴う還付)	〃	国立研究開発 法人防災科学 技術研究所理 事長	高 感 度 地 震 観 測施設
4	〃	〃	〃	〃	〃	0.21 ㎡	—	上記と 合算	〃	〃	同 施 設 の受電
5	〃	〃	静岡市清水区 駒越西2丁目 2707の2	宅 地	宅 地	電柱3本 支柱1本 支線3本	1,500	10,500	〃	中部電力パワ ーグリッド株 式会社清水営 業所 配電グ ループ長	電気事業
6	建 物	事 務 所 建	静岡市清水区 茂畑畑総事業 区域	—	—	1.00. ㎡	—	149,600	6.4.1 ～ 9.3.31	ダイドードリ ンコ株式会社 東海営業部長	自販機 設置
合計								193,960			

普通財産・借受財産等貸付調

(令和8年2月28日 現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	雑種 地	浜松市 北区 都田町 9450の1	畑	畑	支線1本	1,730	1,730	7.4.1 ～ 8.3.31	中部電力パワーグ リッド株式会社 浜北営業所 配電 建設グループ長	電気事業
2	"	"	"	"	"	電柱3本 支線柱1本 支線2本	1,730	10,380	7.4.1 ～ 8.3.31	西日本電信電話 株式会社静岡支 店長	電気 通信 事業
3	土地	敷地	静岡市清水区 駒越西2丁目 12-10	宅 地	宅 地	電柱4本 支柱3本 支線5本	1,500	—	7.10.9 ～ 7.11.7	NTT西日本 株式会社静岡支 店長	"
4	"	"	"	畑	畑	1,415.40㎡	—	免除	"	静岡市長	市道敷
5	"	"	"	"	"	55.98㎡	—	3,716	"	国立研究開発法 人防災科学技術 研究所理事長	高感度 地震観 測施設
6	"	"	"	"	"	0.21㎡	—	上記と 合算	"	"	同施設 の受電
7	"	"	静岡市清水区 駒越西2丁目 2707の2	宅 地	宅 地	電柱3本 支柱1本 支線3本	1,500	—	"	中部電力パワーグ リッド株式会社 清水営業所 配電 建設グループ長	電気事業
合 計								15,826			

※整理番号3及び7の貸付料は、行政財産使用許可期間中に年額使用料として収納済みのため徴収しない。

備品・図書調

1 / 2 頁
(令和 6年度)

所属 0000105442 経済産業部 農林技術研究所果樹研究センター

区 分	令和 6年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 3月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
01-01 机類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-02 台類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
01-03 いす類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
01-04 収納保管庫類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-07 書類整理器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-10 印判類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-11 照明器具類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-13 厨房器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-14 冷暖房器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-17 洗濯機	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-99 その他の庁用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
02-01 情報処理機器類	26	(0) 0	0	(0) 0	0	26
02-02 情報伝達機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
02-03 再生機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
03-01 撮影機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
03-02 観察・観測用光学機器類	15	(0) 1	1,146,200	(0) 0	0	16
03-03 視覚用再生等機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
04-04 調剤用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-01 強度（物性）試験計測機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4

ZMB0040
ZMRB0040

備品・図書調

2 / 2 頁
(令和 6年度)

所属 0000105442 経済産業部 農林技術研究所果樹研究センター

区 分	令和 6年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 3月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
05-02 波動・熱試験計測機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
05-03 電気試験計測機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-04 分析化学機器類	76	(0) 2	2,408,560	(0) 0	0	78
05-05 生物化学機器類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
05-06 環境化学機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
05-07 測量機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
05-08 度量衡測定機器類	8	(0) 1	149,600	(0) 0	0	9
05-09 天体気象観測機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
05-99 その他の試験計測機器類	71	(0) 1	938,300	(0) 0	0	72
06-04 電気電子機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-06 炉・ボイラー加熱装置類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-99 その他の諸機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
07-01 農産用機器類	49	(0) 2	3,628,350	(0) 0	0	51
07-02 林産用機器類	2	(0) 0	0	(1) 1	0	1
08-01 車両類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
計	354	(0) 7	8,271,010	(1) 1	0	360

ZMB0040
ZMRB0040

備品・図書調

1 / 2 頁
(令和 7年度)

所属 0000105442 経済産業部 農林技術研究所果樹研究センター

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 8年 2月28日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
01-01 机類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-02 台類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
01-03 いす類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
01-04 収納保管庫類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-07 書類整理器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-10 印判類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-11 照明器具類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-13 厨房器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-14 冷暖房器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-17 洗濯機	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-99 その他の庁用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
02-01 情報処理機器類	26	(0) 1	864,600	(0) 0	0	27
02-02 情報伝達機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
02-03 再生機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
03-01 撮影機器類	7	(0) 1	342,760	(0) 0	0	8
03-02 観察・観測用光学機器類	16	(0) 0	0	(0) 0	0	16
03-03 視覚用再生等機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
04-04 調剤用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-01 強度（物性）試験計測機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4

ZMB0040
ZMRB0040

備品・図書調

(令和 7年度)

所属 0000105442 経済産業部 農林技術研究所果樹研究センター

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 8年 2月28日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
05-02 波動・熱試験計測機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
05-03 電気試験計測機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-04 分析化学機器類	78	(0) 1	452,100	(0) 0	0	79
05-05 生物化学機器類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
05-06 環境化学機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
05-07 測量機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
05-08 度量衡測定機器類	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
05-09 天体気象観測機器類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
05-99 その他の試験計測機器類	72	(0) 2	1,671,406	(0) 0	0	74
06-04 電気電子機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-06 炉・ボイラー加熱装置類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-99 その他の諸機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
07-01 農産用機器類	51	(0) 1	9,309,300	(1) 1	0	51
07-02 林産用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
08-01 車両類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
計	360	(0) 6	12,640,166	(1) 1	0	365

ZMB0040
ZMRB0040

主 要 備 品 調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区 分		品名、規格	利用状況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	03-02	顕微鏡	走査電子顕微鏡	不使用	H11.3	円 23,310,000
2	07-01	消毒用機器	乗用型防除機	周年 平均月2回	R7.8	9,309,300
3	05-04	炭素窒素分析機	炭素窒素分析装置	平均週2日	H18.9	8,394,750
4	05-04	その他の分析 化学機器	光合成測定装置	不使用	H11.1	6,993,000
5	07-01	貯蔵用機器	柑橘冷風貯蔵庫	1月～3月 毎日	H25.11	6,796,650
6	05-05	その他の生物 化学機器	遺伝子変異 識別装置	周年 月1日	H20.3	6,720,000
7	05-05	その他の生物 化学機器	卓上型フロー サイトメータ	不使用	H11.3	6,531,000
8	07-01	消毒用機器	自走式果樹園 防除ロボット	周年 平均月2回	H29.3	6,463,800
9	05-04	分光分析機器	ICP 発光分光 分析装置	周年 平均週2日	H27.1	6,318,000
10	05-02	光試験計測機器	フルーツテスター	年数回	H13.9	5,512,500
11	05-99	試験実験機器	マッピング情報 収集システム	不使用	H28.12	5,346,000
12	05-04	クロマトグラフ	プレカラム有機酸分 析システム	不使用	H22.3	5,197,500
13	07-01	消毒用機器	乗用型防除機	年間30回	H23.6	4,976,160
14	05-04	クロマトグラフ	高感度有機酸 分析システム	12月～6月 平均週3日	H21.3	4,714,500
15	05-04	クロマトグラフ	ポストカラム有機酸 分析システム	不使用	H22.3	4,704,000
16	05-99	試験実験機器	携帯型熱画像 計測装置	不使用	H16.1	4,141,200

17	07-01	穴掘作溝用機器	土壌改良用掘削機	周年 平均週 2 回	R2. 10	3, 850, 000
18	05-04	クロマトグラフ	イオンクロマト グラフィシステム	不使用	H17. 10	3, 780, 000
19	05-99	試験実験機器	樹体内水分測定装置	不使用	H3. 7	3, 738, 900
20	08-01	特殊自動車	ドーザーショベル	月 1 ～ 2 回	S56. 6	3, 700, 000

生産物受払調

(令和8年2月28日現在)

品名 (単位) 単位		みかん（早生）				みかん（青島）				みかん（不知火）				
		5 年度	6 年度	7 年度	差	5 年度	6 年度	7 年度	差	5 年度	6 年度	7 年度	差	
		a	b	2 月 28 日 現在	b-a	a	b	2 月 28 日 現在	b-a	a	b	2 月 28 日 現在	b-a	
全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。（ア） 面積（ha、a、㎡、反、等） 数量（個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等） 長さ（m、等） 重さ（t、kg、等）等		作付面積 （a）				作付面積 （a）				作付面積 （a）				
		30	30	30	0	50	50	50	0	3	3	3	0	
受 高	前年度繰越高	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	本年度生産高 （イ）	1,940.00	990.00	1,576.00	-950.00	9,010.00	7,670.00	11,810.00	-1,340.00	270.00	439.00	0.00	169.00	
	計	1,940.00	990.00	1,576.00	-950.00	9,010.00	7,670.00	11,810.00	-1,340.00	270.00	439.00	0.00	169.00	
単位数量 （イ／ア）		64.67	33.00	52.53	-31.67	180.20	153.40	236.20	-26.80	90.00	146.33	0.00	56.33	
同前年比（％） （b-a）／a×100		-49				-15				0				
払 高	売払数量	1,489.00	272.00	931.00	-1,217.00	7,734.00	6,522.00	8,850.00	-1,212.00	200.00	148.00	0.00	-52.00	
	売払金額	243,198	57,847	145,358	-185,351	1,280,764	437,205	149,966	-843,559	38,880	0	0	-38,880	
	非売品数量	分類換	141.00	120.00	120.00	-21.00	334.00	865.00	1,050.00	531.00	21.40	50.00	0.00	28.60
	管理換その他	310.00	598.00	525.00	288.00	942.00	283.00	1,910.00	-659.00	48.60	241.00	0.00	192.40	
	計	1,940.00	990.00	1,576.00	-950.00	9,010.00	7,670.00	11,810.00	-1,340.00	270.00	439.00	0.00	169.00	
残高又は繰越数量		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
摘 要		前年度払出分、当年度調定額 18,945円	前年度払出分、当年度調定額 35,742円	前年度払出分、当年度調定額 7,748円		前年度払出分、当年度調定額 153,777円	前年度払出分、当年度調定額 223,663円	前年度払出分、当年度調定額 214,815円		前年度払出分、当年度調定額 44,258円				

生産物受払調

(令和8年2月28日現在)

品名 (単位) 単位		みかん (はるみ)				梨				キウイフルーツ				
		5 年度	6 年度	7 年度	差	5 年度	6 年度	7 年度	差	5 年度	6 年度	7 年度	差	
		a	b	2 月 28 日 現在	b-a	a	b	2 月 28 日 現在	b-a	a	b	2 月 28 日 現在	b-a	
全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。(ア) 面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等		作付面積 (a)				作付面積 (a)				作付面積 (a)				
		6	6	6	0	10	10	10	0	15	15	15	0	
受 高	前年度繰越高	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	本年度生産高 (イ)	680.00	1,400.00	845.00	720.00	1,489.60	1,141.30	1,726.80	-348.30	0.00	0.00	82.00	0.00	
	計	680.00	1,400.00	845.00	720.00	1,489.60	1,141.30	1,726.80	-348.30	0.00	0.00	82.00	0.00	
単位数量 (イ/ア)		113.33	233.33	140.83	120.00	148.96	114.13	172.68	-34.83	0.00	0.00	5.47	0.00	
同前年比 (%) (b-a) /a×100						106					-23			0
払 高	売払数量	400.00	428.00	164.00	28.00	715.00	453.00	591.00	-262.00	0.00	0.00	50.00	0.00	
	売払金額	108,000	0	0	-108,000	270,270	171,234	229,780	-99,036	0	0	13,500	0	
	非 売 品 数 量	分類換	89.60	300.00	200.00	210.40	314.00	370.00	500.00	56.00	0.00	0.00	20.00	0.00
		管理換その他	190.40	672.00	481.00	481.60	460.60	318.30	635.80	-142.30	0.00	0.00	12.00	0.00
	計	680.00	1,400.00	845.00	720.00	1,489.60	1,141.30	1,726.80	-348.30	0.00	0.00	82.00	0.00	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘 要				前年度払出分、当年度調定額 177,476円										

生産物受払調

(令和8年2月28日現在)

品名 (単位)		柿								合計					
		5 年度	6 年度	7 年度	差	5 年度	6 年度	7 年度	差	5 年度	6 年度	7 年度	差		
		a	b	2 月 28 日 現在	b-a	a	b	2 月 28 日 現在	b-a	a	b	2 月 28 日 現在	b-a		
単位															
全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。(ア) 面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等		作付面積 (a)				作付面積 (a)				作付面積 (a)					
		15	15	15	0					129	129	129	0		
受 高	前年度繰越高	0.00	0.00	0.00	0.00					0.00	0.00	0.00	0.00		
	本年度生産高 (イ)	572.00	0.00	530.00	-572.00					13,961.60	11,640.30	16,569.80	-2,321.30		
	計	572.00	0.00	530.00	-572.00					13,961.60	11,640.30	16,569.80	-2,321.30		
単位数量 (イ/ア)		38.13	0.00	35.33	-38.13					635.29	680.19	643.04	44.90		
同前年比 (%) (b-a) / a × 100						-100									7
払 高	売払数量	367.50	0.00	145.00	-367.50					10,905.50	7,823.00	10,731.00	-3,082.50		
	売払金額	52,677	0	25,056	-52,677					1,993,789	666,286	563,660	-1,327,503		
	非売品数量	分類換	70.00	0.00	64.00	-70.00					970.00	1,705.00	1,954.00	735.00	
		管理換その他	134.50	0.00	321.00	-134.50					2,086.10	2,112.30	3,884.80	26.20	
	計	572.00	0.00	530.00	-572.00					13,961.60	11,640.30	16,569.80	-2,321.30		
残高又は繰越数量		0	0	0	0					0	0	0	0		
摘 要										前年度払出分、当年度調定額 172,722円				前年度払出分、当年度調定額 259,405円	前年度払出分、当年度調定額 444,297円

試験研究成果一覧表

(令和7年度)											
事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(7年度)7年度	(全体)8年度	
マスト農林産業の革新的技術開発	1. 温州みかんの省力樹形による生産性向上のための栽培管理方法の開発	新規	単独	7-11	近年の気候変動による果実品質の低下や収量の減少、栽培経験の少ない作業者の増加、機械を活用した省力化の遅れなどに対応した新たな栽培管理方法の開発する。	双幹形青島温州の摘果時間は、交互結実栽培が慣行栽培の間引き摘果と比べて約1/2に短縮されることが明らかとなった。 13年生春しずかは、同樹齢の青島温州と比較して、果実が小さく、収穫時のクエン酸含量が高い傾向にあった。	春しずかの栽培マニュアルとして「あたらしい農業技術」を作成した。	無	(723)	(1,446)	
	2. 温州ミカン栽培の超省力、超多収、高収益を実現する片面結実法の開発	継続	単独	5-9	温州ミカン栽培の超省力的で超多収が可能な片面結実法を確立するとともに、農薬使用量の抑制技術や無人化技術を開発する。	片面結実樹の収量は、慣行栽培の1.5倍で、夏芽母枝への着果が、収量増加の要因であることが明らかになった。 ドローンによる年間防除体系試験の結果、チャノキイロアザミウマに対する防除効果に慣行防除と差がなかった	成績概要書に記載して成果を公表するとともに関係団体に情報を提供した。	無	(46,496)	(53,496)	
	3. 落葉果樹における安定生産技術の開発	新規	単独	7-11	生産者の高齢化に伴う労力の不足や異常気象による高温障害などにより従来の栽培管理作業が困難となり、収量低下などの生産性の低下が問題となっており、生産性や高温障害に耐性した技術を開発する。	植物調整剤散布や剪定枝の水挿し処理が、ナシの花粉確保に有効であった。 キウイフルーツの生育不良園地の土壌中に葉や根に由来する生育阻害物質が存在することが判明し、この物質は竹炭化物により活性が低減されるということが明らかになった。	関係機関に情報を提供した。クリのカットバック試験では実証ほを設置して、関係者と技術共有した。	無	(725)	(1,450)	
									725	725	

試験研究成果一覧表

(令和7年度)

農林技術研究所果樹研究センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果 の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (千円)		備考
									(7年度) 7年度	(全体) 8年度	
気候変動・炭素環境に配慮した持続可能な農業の推進	4. 多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定	終了	国庫 共同	3-7	気候変動や消費ニーズに対応した新たな柑橘品種を開発する。また、現場の課題解決に向けた高品質な落葉果樹品種を育成する。	国育成カンキン系統の本県での適応性を確認した。県育成のカンキン新品種候補系統から2品種を一次選抜した。	成績概要書に記載して成果を公表するとともに関係団体に情報提供した。	無	(6,886) 1,610	-	農研機構果樹茶業研究部 静岡地
	5. 生産ロス削減に向けたICT・AIを活用した静岡みかん安定生産技術の開発	新規	単独 共同	7-11	温州みかんの生産ロスを削減するため、主な要因である水腐れや浮き皮、貯蔵腐敗について、現状の発生実態調査や発生原因の解明を行い、発生リスクの予測及び予防対策技術の開発する。	青島温州の水腐れ症の再現に成功し、果皮の水濡れが原因と示唆された。 水腐れ軽減効果がある資材を選抜するための調査では、無散布に比べ、果実の表面が乾くまでの時間が短い資材が明らかになった。	成績概要書に記載して成果を公表するとともに関係団体に情報提供した。	無	(18,615) 18,615	(26,615) 8,000	JAMiがび ニッコウブ ロセス(株) (株) 浜松 パルス 静岡県立専門職大学
	6. カンキン害虫の薬剤感受性を把握した上で効果的な薬剤の使用体系を確立するとともに、抵抗性を発達させた害虫を農薬以外の方法で管理する技術を開発する。	終了	国庫	3-7	害虫の薬剤感受性を把握した上で効果的な薬剤の使用体系を確立するとともに、抵抗性を発達させた害虫を農薬以外の方法で管理する技術を開発する。	土着天敵であるカブリダニ2種が、代替餌存在下でもミカンハダニを捕食することを確認した。アカマルカイガラムシの防除効果が高い薬剤が明らかになった。	成績概要書に記載して成果を公表するとともに関係団体に情報提供した。	無	(5,068) 2,250	-	
果樹せん定枝等を活用したバイオ炭の製造、施肥体系の開発	7. 果樹せん定枝等を活用したバイオ炭の製造、施肥体系の開発	継続	国庫	5-9	果樹せん定枝を活用したバイオ炭の製造法、施肥体系を開発する。	バイオ炭施用1～3年目の青島温州及び不知火において、果実品質、樹体生育、収量に及ぼす影響は認められなかった。	コンソーシアム内において成果発表を行った。	無	(11,815) 3,407	(13,150) 1,335	

試験研究成果一覧表

(令和7年度)

農林技術研究所果樹研究センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(7年度) 7年度	(全体) 8年度	
気候・炭素環境配慮可能な農業の推進	8. 生育調節及び病害虫防除等新材料の開発	終了	受託	7	新しい植物生育調節剤、病害虫防除剤、肥料等の特性解明と利用法を開発する。	委託を受けた開発中の薬剤や肥料、資材等の効果試験を実施し、効果や被害等を確認した。キウイ花粉除菌剤の効果的な温度条件、柑橘の日焼け対策資材の効果等が明らかとなった。	日本植物防疫協会、県肥料協会、JA等に試験結果を提供し、農薬登録や新資材の利用推進に資する。	無	(2,845) 2,845	-	
	9. 静岡県におけるアボカドの栽培技術の開発	継続	国庫	7-9	温暖化による気温の上昇を念頭に、露地栽培の可能性があり、かつ健康志向であり、市場が拡大傾向にある亜熱帯性果樹「アボカド」について、産地化に向けた栽培技術を開発する。	アボカドの着花、着果、生育状況を調査し、無加温温室におけるアボカドの初期生育について、品種間の違いが明らかとなった。 施肥や仕立ての違いによる生育への影響を確認した。	アボカド栽培ワーキンググループにおいて、試験結果を共有し、栽培指針の検討に活用する。	無	(831) 831	(1,662) 831	
	10. 水田転換園における面交互結実栽培の増収、省力化および収穫時期延長技術の開発	継続	国庫	7-11	水田転換園における片面交互結実栽培の増収、省力化および収穫時期延長技術を開発する。	水田転換園における導入1年目の青島温州の収量は慣行栽培と差が見られなかった。 収穫時期延長による影響は見られなかった。	委託プロジェクト内において成果を共有した。	無	(2,500) 2,500	(5,000) 2,500	

2 3 公務中の事故等に関する調

1 現金、財産及び占有動産の亡失・損傷事故

なし

2 公務災害（通勤災害を含む。）

番号	受傷 年月日	職名	認定 年月日	治癒 年月日	事故等の概要とその後の状況
1	令和7年 4月18日	研究員	令和7年 7月4日	令和7年 8月15日	クロマツの花をせん定鋏を使用して採集していた際、親指をはさみ、負傷。 近隣の整形外科を受診し、左母指挫創により全治1週間の診断。 事故の翌日から勤務し、その後、勤務上、特に支障は無く、当事者から治癒報告書の提出を受けたのが令和7年8月18日であった。
2	令和8年 2月13日	主任 研究員			果樹のせん定をしていた際にせん定ノコギリで、左手親指を負傷。 翌日、近隣の整形外科を受診し、左手親指挫創の診断。 事故の翌週から勤務し、その後、勤務上、特に支障は無いが、当事者から治癒報告書の提出は受けていない。

3 公務中における交通事故

(1) 発生状況

(果樹研究センター)

区 分	件 数	事故の内訳		
		加害事故 (過失割合50%超)	被害事故 (過失割合50%以下)	その他 (過失割合が不明なもの等)
令和4年度	0			
令和5年度	0			
令和6年度	0			
令和7年度	0			

(2) 監査対象期間中の事故

なし

4 その他

なし

2 4 工事中の事故に関する調

1 工事中の事故発生状況

(令和8年2月28日現在)

区分	第 三 者 事 故					工事等の関係者事故				もらい事故	
	件数	死亡	重傷	軽傷	損害のみ	件数	死亡	重傷	重症以外	件数	死傷
令和5年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和6年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和7年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 工事中の事故の内容

該当なし

2 5 前回の監査結果等改善状況調

1 定期監査

前回監査 令和7年6月10日

前回監査対象期間 令和6年2月1日 ～ 令和7年2月28日

区 分	改 善 状 況
1 指 摘 該当なし	
2 注 意 該当なし	
3 意 見 該当なし	
4 指 導 該当なし	